Canon
キヤノン株式会社
キヤノン販売株式会社
〒108-8011　東京都港区港南2-16-6

製品取り扱い方法に関するご相談窓口

お客様相談センター全国共通電話番号

ナビダイヤル 0570-01-9000 （商品該当番号：71）

受付時間：平日9:00 ～ 20：00　土・日・祝日10:00 ～ 17:00　（1月1日 ～ 1月3日を除く）

お電話がつながりましたら、音声ガイダンスに沿って、商品該当番号＜71＞または「デジタルカメラ」とお話しください。
全国64ヶ所の最寄りのアクセスポイントまでの通話料金でご利用になれます。
自動車電話・PHSをご利用の方、海外からご利用の方は、043-211-9556をご利用ください。

※ 電話の回線状態等によっては、正しく音声認識できない場合があります。その場合は案内窓口におつなぎいたします。
※ 音声応答システム、受付時間、該当番号は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

修理サービスご相談窓口

付属の「修理サービスご相談窓口」（別紙）でご確認ください。

キヤノンデジタルカメラホームページのご案内

キヤノンデジタルカメラのホームページを開設しています。最新の情報が掲載されていますので、インターネットをご利用の方は、ぜひお立ち寄りください。

キヤノン株式会社　http://canon.jp/bebit/
キヤノン販売株式会社　デジタルカメラ製品情報　http://canon.jp/dc/
キヤノン販売株式会社　サポート　http://canon.jp/support/
CANON iMAGE GATEWAY　http://www.imagegateway.net/

CDI-J138-010　　PRINTED IN CHINA

Canon キヤノンデジタルカメラ PowerShot A95 カメラユーザーガイド

Canon

キヤノンデジタルカメラ

PowerShot A95
カメラユーザーガイド

CANON iMAGE GATEWAY　DiG!C

BUBBLE JET DIRECT

- 最初にp. 6の「ご使用の前に」をお読みください。
- ソフトウェアクイックガイドやダイレクトプリントユーザーガイドもお読みください。

このカメラでできること

撮　影

- シャッターを押すだけで、簡単に撮影できるオート撮影から、多彩な機能を活用できるシャッタースピード優先AE、絞り優先AEなど、思いどおりの撮影が楽しめます。
- 静止画のほか、音声つきの動画も撮影できます。
- 露出補正、ホワイトバランス、色効果なども用途に合わせて自由に変更できるほか、シーンに合わせてカメラで各種設定を自動的に行い、撮影できます。
- SIセンサーを搭載しており、撮影した画像の縦横位置も自動的に判別します。
- 別売のワイドコンバーター、テレコンバーター、クローズアップレンズを装着して撮影できます。

再　生

- 撮影した画像をその場ですぐに確認でき、必要なければすぐに削除できます。
- 動画を音声つきで再生できます。
- オートプレイ機能で画像を自動的に再生できます。

編　集

- 撮影した画像に、音声メモを記録できます。
- 記録した動画を編集できます。

印刷（プリント）

- カメラダイレクト対応プリンター（別売）に接続し、パソコンを使わずにイージーダイレクトボタンを押すだけで、高画質なプリントを得られます。
- 撮影した画像は、従来の写真と同様に、プリント取り扱い店でデジタルプリントできます。また、インターネットを通じてオンラインプリントもできます。
- このカメラは、標準規格「PictBridge（ピクトブリッジ）」に対応していますので、キヤノン製以外のプリンター（PictBridge対応）も接続でき、カメラからの簡単な操作でプリントできます。

撮影した画像の活用

- パソコンに画像を取り込んで、編集できます。
- Windows をお使いの場合は、パソコンに接続し、イージーダイレクトボタンを押すだけで、簡単に画像を取り込めます。
- 撮影した画像や音声は、カメラの起動画面や起動音、シャッター音として設定できます。
- インターネットを通じて、撮影した画像をアップロードして、オリジナルアルバムを作成できます。また、そのアルバムを友人やご家族にも公開できます。

アクセサリーはキヤノン純正品のご使用をおすすめします。

本製品は、キヤノン純正の専用アクセサリーと組み合わせて使用した場合に最適な性能を発揮するように設計されておりますので、キヤノン純正アクセサリーのご使用をおすすめいたします。
なお、純正品以外のアクセサリーの不具合（例えばバッテリーパックの液漏れ、破裂など）に起因することが明らかな、故障や発火などの事故による損害については、弊社では一切責任を負いかねます。また、この場合のキヤノン製品の修理につきましては、保証の対象外となり、有償とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

ニッケル水素電池のリサイクルにご協力ください。

ガイドの使いかた

システムマップ
- 付属品・別売品の紹介
- 周辺機器との接続

クイックスタートガイド
- カメラの基本的な操作方法とボタンの説明
- ソフトウェアの基本的な操作方法

カメラユーザーガイド
- カメラの準備～撮影～再生～消去の操作方法
- パソコンとの接続方法

以下のガイドもご覧ください。

ソフトウェア クイックガイド
- 付属のCD-ROMに収められている各ソフトウェアの主な機能
- インストールに必要なパソコンのシステム構成
- ソフトウェアのインストール～パソコンとの接続～画像の取り込みの操作方法

*「Windows® XP、Mac OS Xをお使いの方へ」もご覧ください。

ZoomBrowser EX ソフトウェアガイド (Windows)
ImageBrowser ソフトウェアガイド (Macintosh)
- ZoomBrowser EX (Windows)、ImageBrowser (Macintosh)の詳細な使いかた

ダイレクトプリント ユーザーガイド
- プリンターとの接続方法とプリント方法

修理サービス ご相談窓口
- 修理に関するお問い合わせ先

本　書

カメラに付属

別売のCPプリンターに付属
(CPプリンター以外のプリンターをお使いのときは、各プリンターの使用説明書もご覧ください)

プリンター ユーザーガイド

- プリンターとカメラの接続方法
- ペーパーやインクカセットの入れかた
- プリンターやペーパー、インクカセットの取り扱い上のご注意

プリンタードライバ ユーザーガイド

- プリンタードライバのインストール方法
- プリンターとパソコンの接続方法
- パソコンからのプリント方法

表記について

見出しの下にあるマークは、この操作が行えるモードを表しています。この例では、撮影モードダイヤルが AUTO、P、Tv、Av、M、[ポートレート]、[風景]、[夜景]、[スポーツ]、[スティッチアシスト]、SCN、[動画] のときに、操作できます。

> **ストロボを使って撮る**
>
> モードダイヤル AUTO P Tv Av M SCN

カメラを正しく動作させるための注意や制限を記載しています。

カメラを使用するにあたって知っておくと便利になること、参考になることを記載しています。

目次

☆のページは、このカメラの機能や操作をまとめて記載しています。

必ずお読みください

ためし撮り

必ず事前にためし撮りをし、画像が正常に記録されていることを確認してください。
万一、このカメラやCFカードなどの不具合により、画像の記録やパソコンへの取り込みがされなかった場合、記録内容の補償についてはご容赦ください。

著作権について

あなたがこのカメラで記録した画像は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興業、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

保証について

このカメラの保証書は国内に限り有効です。万一、海外旅行先で、故障・不具合が生じた場合は、持ち帰ったあと、国内の「お客様相談センター」にご相談ください。

本体温度について

このカメラは、長時間お使いになっていると、本体温度が高くなることがあります。これは故障ではありませんが、長時間皮膚が触れたままになっていると、低温やけどの原因となることがありますので、ご注意ください。

液晶モニターについて

液晶モニターは非常に精密度の高い技術で作られており99.99%以上の有効画素がありますが、0.01%以下の画素欠けや、黒や赤の点が現れたままになることがあります。これは故障ではありません。また、記録される画像には影響ありません。

安全上のご注意

● ご使用の前にこの「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
● ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。内容をよく理解してから本文をお読みください。
● 本文中の「本機器」とは、カメラや電池および別売のバッテリーチャージャー、コンパクトパワーアダプターを指します。

警告	この警告事項に反した取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性があることを示します。
注意	この注意事項に反した取り扱いをすると、人が傷害または物的損害を負う可能性があることを示します。

	△記号は、取り扱いを誤ると、事故につながる可能性があることを示します。記号の中の図は注意事項を意味します。
	⃠記号は、禁止の行為を示します。記号の中の図は禁止事項を意味します（左図：分解禁止）。
	●記号は、必ず守っていただきたい事項を示します。記号の中の図は指示内容を意味します。

⚠ 警告

● **カメラで太陽や強い光源を直接見ないようにしてください。** 視力障害の原因となります。

● **ストロボを人の目に近づけて発光しないでください。** 目の近くでストロボを発光すると、視力障害を起こす可能性があります。特に、乳幼児を撮影するときは1m以上離れてください。

● **本機器はお子様の手の届かないところに保管してください。** お子様が誤って本機器や電池を破損すると危険です。また、誤ってストラップを首に巻き付けると、窒息することがあります。

● **本機器を分解、改造しないでください。** 高電圧がかかり、感電する原因となることがあります。内部の点検、調整、修理はお買い上げになった販売店またはキヤノンサービスセンターにご依頼ください。

● **落下などにより、ストロボ部分が破損した際は、内部には触れないでください。** さらに、内部が露出した際は、絶対に手を触れないでください。高電圧がかかり、感電する原因となります。速やかに、お買い上げになった販売店またはキヤノンサービスセンターにご連絡ください。

● **煙が出ている、焦げ臭いなどの異常状態のまま使用しないでください。** 火災、感電の原因となります。すぐに機器本体の電源を切り、その後必ず電池を外し、電源コードの差し込みプラグをコンセントから抜き、煙が出なくなるのを確認して、お買い上げになった販売店またはキヤノンサービスセンターにご連絡ください。

● **本機器を落としたり外装を破損した場合は、まず、カメラの電源を切り、電池を外し、電源コードの差し込みプラグをコンセントから抜いてください。** そのまま使用すると火災、感電の原因となります。お買い上げになった販売店またはキヤノンサービスセンターにご連絡ください。

●**本機器内部に水などを入れたり、濡らしたりしないでください。** カメラには防水処理が施されていません。水滴がかかったり、潮風にさらされたときには、吸水性のある柔らかい布で拭いてください。万一、内部に水や異物などが入った場合は、まず、カメラの電源を切り、電池を外し、電源コードの差し込みプラグをコンセントから抜いてください。そのまま使用すると火災、感電の原因となります。お買い上げになった販売店またはキヤノンサービスセンターにご連絡ください。

●**お手入れのときは、アルコール、ベンジン、シンナーなどの引火性溶剤は使用しないでください。**火災の原因となります。

●**電源プラグを定期的に抜き、その周辺およびコンセントに溜まったほこりや汚れを乾いた布で拭き取ってください。**ほこり、湿気、油煙の多いところで電源プラグを長時間差したままにすると、その周辺に溜まったほこりが湿気を吸って絶縁不良となり、火災の原因となります。

●**電源コードに重いものを乗せたり、傷つけたり、破損したり、加工しないでください。**漏電して、火災、感電の原因となります。

●**濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。**感電の原因となります。また、電源プラグを抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。電源コードを引っ張ると、芯線の露出、断線などでコードが傷つき、火災、感電の原因となります。

●**本機器専用以外の電源は使用しないでください。**発熱、変形して、火災、感電の原因となります。

●**電池を火に近づけたり、火の中に投げ込まないでください。**また、水の中に入れたりしないでください。電池の破裂、液漏れにより、火災、けがの原因となります。

●**電池を分解、改造したり、加熱しないでください。**破裂により、けがの原因となります。万一、電池の電解液が漏れ、衣服、皮膚、目、口に付いたときは、ただちに洗い流してください。

●**電池を落とすなどして強い衝撃を与えないでください。**外装が破損した場合、電池の液漏れにより、けがの原因となります。	
●**キーホルダーなどの金属類で電池の「＋」と「－」の端子を接触（ショート）させないでください。** 発熱し、やけど、けがの原因となります。	
●**電池を廃却する場合は、接点部にテープを貼るなどして絶縁してください。**廃却の際、他の金属と混じると、発火、破裂の原因となります。	
●**指定された電池を使用してください。**それ以外のものを使用すると、電池の破裂、液漏れにより、火災、けがや周囲を汚す原因となることがあります。	
●**キヤノン製の単3形ニッケル水素電池およびバッテリーチャージャーをお使いください。** それ以外のものを使用すると、発熱、変形して、火災、感電の原因となります。	
●**バッテリーチャージャーおよびコンパクトパワーアダプターは、充電終了後および使用しないときは、カメラと電源コンセントの両方から外してください。**長時間接続しておくと、発熱、変形して火災の原因となります。	
●**コンパクトパワーアダプターの出力端子は、このカメラ専用です。** 他の製品にはお使いにならないでください。火災の原因となることがあります。	
●**別売のワイドコンバーター、テレコンバーター、クローズアップレンズ、コンバージョンレンズアダプターを取り付けるときは、確実にねじ込んでください。**緩んで脱落して割れると、ガラスの破片でけがをすることがあります。	

磁気について

カメラのスピーカー（p. 13）に磁気の影響を受けやすいもの（クレジットカードなど）を近づけないでください。それらのデータがこわれて、使用できなくなることがあります。

⚠ 注意

● **直射日光のあたる場所、および車のトランクやダッシュボードなどの高温になるところで使用・保管しないでください。**
電池の液漏れ、発熱、破裂により、火災、やけど、けがの原因となったり、機器外装が熱により変形することがあります。また、バッテリーチャージャーで充電する際は、風通しのよいところでお使いください。

● **湿気やほこりの多い場所に保管しないでください。** 火災、感電、故障の原因となることがあります。

● **カメラをストラップで下げているときは、他のものに引っ掛けたり、強い衝撃や振動を与えないように注意してください。** けがや本体の故障の原因となることがあります。

● **ストロボの発光部分を、手や布などで覆ったまま発光しないでください。** 煙や音が出て、故障の原因となることがあります。また、連続発光後、発光部分に触らないでください。やけどの原因となることがあります。

● **ストロボ発光部分にゴミやほこりなど異物がついたまま発光しないでください。** 発熱によりストロボ発光部分の損傷の原因となることがあります。

● **バッテリーチャージャーやコンパクトパワーアダプターは、必ず指定された電源コンセントを使用し、定格を超えて使用しないでください。**
地域によって、電源プラグ部分が異なります。本書の「付録」をご覧ください。

● **バッテリーチャージャー、コンパクトパワーアダプターの電源コードや電源プラグが傷んだものや、コンセントの差し込みが不十分なまま使用しないでください。**

● **電源プラグや充電端子部に金属製のピンやゴミを付着させないでください。**

故障を防ぐためのご注意

■電磁波による誤作動、破壊を防ぐために

カメラをモーターや強力な磁場を発生させる装置の近くに、絶対に置かないでください。電磁波により、カメラが誤作動したり、記録した画像のデータが破壊されることがあります。

■結露を防ぐために

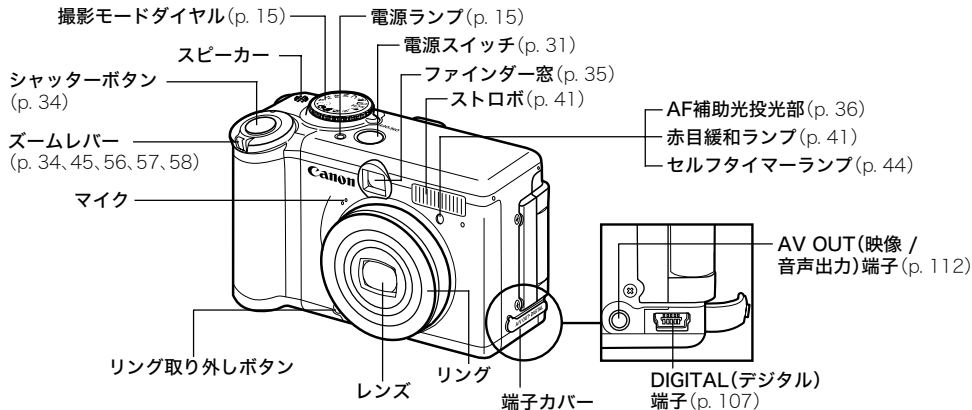
カメラを寒い場所から急に暑い場所に移すと、カメラの外部や内部に結露(水滴)が発生することがあります。
カメラを寒い場所から暑い場所に移すときは、結露の発生を防ぐために、カメラをビニール袋に入れて密封しておき、周囲の気温になじませてから、袋から取り出してください。

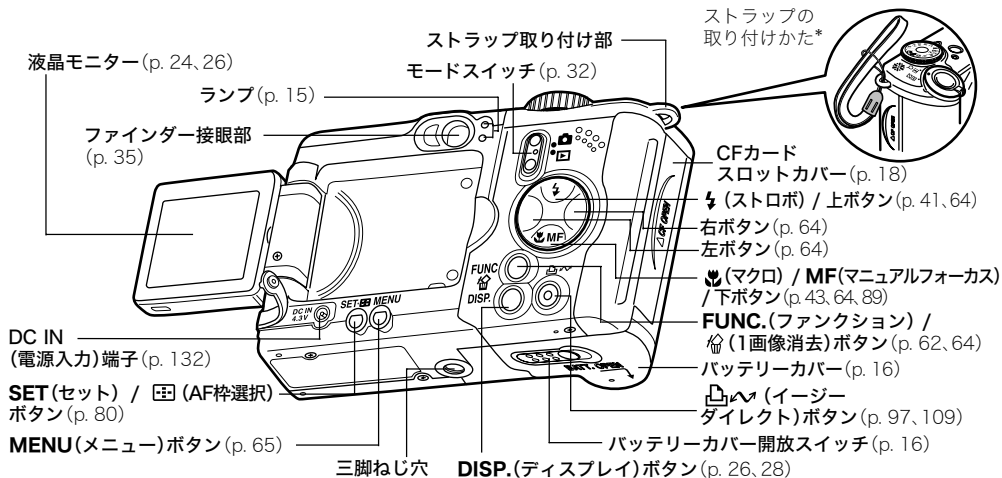
■結露が発生したときは

故障の原因となりますので、カメラをお使いにならないでください。
CFカード、電池、コンパクトパワーアダプターをカメラから取り外し、水滴が消えるまで待ってから、カメラをお使いください。

■長期間使用しないときは

電池をカメラやバッテリーチャージャーから取り出して、安全な場所に保存しておいてください。電池を入れたままにしておくと、液漏れが原因で、故障することがあります。
ただし、電池を取り出してから約3週間経過すると、設定した日付 / 時刻やカメラの設定が解除される場合があります。

各部の名称

カメラにパソコン、またはプリンターを接続するときに使用するケーブルは、以下のとおりです。
パソコン:インターフェースケーブル IFC-400PCU(カメラに付属)
カメラダイレクト対応プリンター(別売)
- CPプリンター:インターフェースケーブル IFC-400PCU(カメラに付属)または、ダイレクトインターフェースケーブル DIF-100(CP-100 / CP-10に付属)
- バブルジェットプリンタ(PIXUS)
  - Bubble Jetダイレクト対応プリンタ:バブルジェットプリンタの使用説明書でご確認ください。
  - PictBridge対応プリンタ:インターフェースケーブル IFC-400PCU(カメラに付属)
- キヤノン製以外のPictBridge対応プリンター:インターフェースケーブル IFC-400PCU(カメラに付属)

このカメラで使えるカメラダイレクト対応プリンターについては、システムマップ、またはダイレクトプリントユーザーガイドでご確認ください。

(イージーダイレクト)ボタンを押すと、以下の操作が簡単にできます。
- プリント:ダイレクトプリントユーザーガイド(別冊)
- パソコンへの画像の取り込み(Windowsのみ):p. 104、ソフトウェアクイックガイド(別冊)

プリンター、パソコン接続時は、ランプが点灯、点滅します。
青点灯:プリンター準備完了時 / 画像転送準備完了時
青点滅:プリント中 / 画像転送中(ダイレクト転送方法によっては、点滅しません(p. 109))

*ストラップを下げているときは、カメラを振り回すような持ち方を避け、他のものに引っ掛からないように注意してください。

撮影モードダイヤル

撮影モードを選ぶときに使います。

- AUTO：オート(p. 34)
  カメラまかせの撮影ができます。

- **イメージゾーン**
  被写体に合う条件をカメラにまかせて設定し、撮影ができます。
  ：ポートレート(p. 38)　：風景(p. 38)
  ：夜景(p. 38)　：高速シャッター(p. 38)
  ：スローシャッター(p. 38)
  SCN：スペシャルシーンモード(p. 38, 50)
  ：スティッチアシスト(p. 38, 47)
  ：動画(p. 38、54)

- **クリエイティブゾーン**
  露出や絞りを変えるなど、思いどおりのさまざまな撮影ができます。
  P：プログラムAE(p. 75)
  Tv：シャッタースピード優先AE(p. 75)
  Av：絞り優先AE(p. 76)　**M**：マニュアル露出(p. 77)
  C：カスタム(p. 91)

ランプ

電源スイッチまたはシャッターボタンを押したとき、ランプが点灯、点滅します。

ランプ(上)

緑点灯：撮影準備完了 / 通信準備完了(パソコン接続時)
緑点滅：CFカードへ記録中 / CFカードからの読み出し中 / CFカードからの消去中 / データ転送中(パソコン接続時) / 電池残量が低下
橙点灯：撮影準備完了(ストロボ発光)
橙点滅：撮影準備完了(手ブレ警告) / ストロボ充電中

ランプ(下)

黄点灯：マクロ撮影 / マニュアルフォーカス撮影 / AFロック撮影
黄点滅：ピントが合いにくいとき(黄点滅でもシャッターは押せますが、フォーカスロックでピントを合わせて撮影してください(p. 88))。

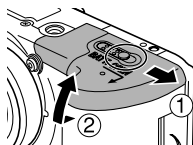
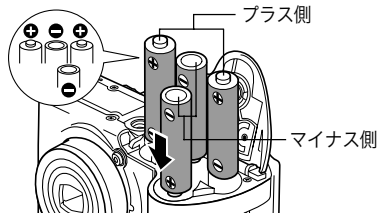
電源ランプ

緑点灯：電源が入ったとき
緑点滅：電池残量が低下

電池を入れる

付属の単3形アルカリ電池、または別売の単3形ニッケル水素電池を4本入れてください。

1 電源が切れていることを確認する

2 バッテリーカバー開放スイッチを矢印の方向にスライドさせ、バッテリーカバーを開く

3 電池を図のようにいれる

4 バッテリーカバーを閉じる

ランプ(上)が緑色に点滅しているときは、CFカードへの記録中 / 読み出し中 / 消去中、またはデータ転送中ですので、カメラの電源を切ったり、バッテリーカバーを開けないでください。

- 長時間お使いになる場合は、別売のACアダプターキットACK600をご使用ください(p. 131)。
- 別売のバッテリー / チャージャーキットをお使いになると、単3形ニッケル水素電池を使用することもできます(p. 129)。
- 電池性能について(p. 143)
- お使いになれるバッテリー / チャージャーキット、単3形ニッケル水素電池については、システムマップ(別紙)をご覧ください。

電池の取り扱いについて

- このカメラで使用できる電池は、単3形アルカリ電池、単3形ニッケル水素電池(別売)です。単3形ニッケル水素電池は、キヤノン製のものをお使いください。単3形ニッケル水素電池の取り扱いについては、「充電式バッテリーを使う(p. 129)」をご覧ください。

- **アルカリ電池は、銘柄により容量や特性に差があるため、付属のアルカリ電池に比べ、電池の使用可能時間が短い場合があります。**
- アルカリ電池は、低温下では使用可能時間が短くなります。またアルカリ電池の特性上、ニッケル水素電池に比べ、電池の寿命が短い場合があります。低温下や長時間カメラをお使いになるときは、キヤノン製の単３形ニッケル水素電池（4本セット）をお使いになることをおすすめします。
- 単3形ニカド電池はお使いになれますが、性能のばらつきがあるためおすすめできません。
- **新しい電池と、他のカメラなどで使用した古い電池を混ぜて使わないでください。古い電池が液漏れを起こすことがあります。**
- **電極（（＋）と（－））を逆にして入れないでください。**
- **メーカーや種類の異なる電池を混ぜて使わないでください。**
- 電池を入れる前に、電極を乾いた布などでよく拭いてからお使いください。電極が皮脂などで汚れていると、記録可能画像数が著しく少なくなったり、電池の使用可能時間が短くなります。
- 低温下では電池の性能が低下したり、バッテリーアイコンが早めに表示されることがあります（特にアルカリ電池の場合）。このようなときは、使用直前までポケットなどに入れて温めてから使用すると、電池の性能が回復することがあります。この際、ポケットにキーホルダーなどの金属類は入れないでください。電池がショートする恐れがあります。
- 長期間使用しないときは、カメラから電池を取り出して保管してください。電池を入れたままにしておくと、液漏れが原因でカメラが故障することがあります。ただし、電池を取り出してから約3週間経過すると、設定した日付 / 時刻やカメラの設定が解除される場合があります。

⚠ 警告

外装シールが（一部または全体に関わりなく）剥がれている電池や破損している電池を使用すると、電池の液漏れ、発熱、破裂の原因となり危険ですので、絶対にお使いにならないでください。市販されているままの状態でも、電池によっては、外装シールが十分でないものがあります。このような電池も絶対にお使いにならないでください。

以下のような形状の電池はご使用になれません。

外装シールが一部またはすべて剥がしてある電池（裸電池）

プラス電極が平らな電池

マイナス電極の一部が膨らんでいるが、十分に外装シールで被われていない電池

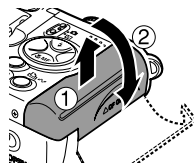
電池残量について

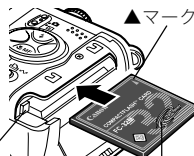
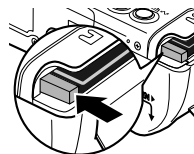
電池残量が低下すると、以下のようなアイコンやメッセージが表示されます。

電源ランプが緑色に点滅	電池残量が低下しています。長時間お使いになる場合は、新しい電池を使用するか、早めに充電してください。 液晶モニターが消えているときは、**DISP.**ボタン、ボタン、/**MF**ボタンのいずれかを押すと、表示されます。
（電池残量アイコン）	
バッテリーを交換してください	電池の残量が少なく、動作不能です。直ちに電池を交換してください。

CFカードを入れる

1 電源が切れていることを確認する

2 CFカードスロットカバーを矢印の方向にスライドさせて開く

3 CFカードのラベル面を手前にして差し込む

- CFカード取り出しボタンが飛び出すまで、しっかりと奥まで差し込みます。

- CFカードを取り出すときは、CFカード取り出しボタンを押します。

4 CFカードスロットカバーをしっかりと閉じる

- ランプ(上)が緑色に点滅しているときは、CFカードへの記録中 / 読み出し中 / 消去中、またはデータ転送中ですので、絶対に次のことは行わないでください。画像データが壊れることがあります。
  - カメラ本体に振動や衝撃を与える。
  - カメラの電源を切ったり、CFカードスロットカバーを開ける。
- 他社のカメラやパソコン、または他のアプリケーションソフトウェアで編集したCFカードを使用すると、CFカードへの書き込み速度が遅くなったり、誤作動する恐れがありますのでご注意ください。
- このカメラで初期化したCFカードをお使いになることをおすすめします(右記)。付属のCFカードは、そのままお使いになれます。

CFカードの種類と記録可能画像数の目安について(p. 143)

CFカードの取り扱いについて

- CFカードは精密電子機器です。曲げたり、強い力を加えたり、衝撃や振動を与えないでください。
- CFカードを分解したり、改造しないでください。
- 温度差の大きな場所へ急に移動すると、CFカードに水滴が付き(結露)、故障の原因になることがあります。結露を防ぐには、移動の前にビニール袋に入れて密封しておき、周囲の温度に十分慣らしてからお使いください。
  結露したときは、水滴が自然に消えるまで常温で放置してください。
- CFカードを保管するときは、専用のケースに入れてください。
- CFカードは、下記の場所で使用したり、保管しないでください。
  ・ほこりや砂ぼこりの立つ場所
  ・高温多湿の場所

CFカードを初期化する

新しいCFカードをお使いになるときや、CFカード内の画像だけでなく、他のデータもすべて削除したいときは、CFカードを初期化(フォーマットともいいます)します。

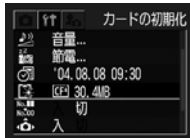
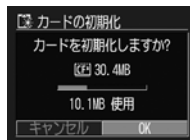
CF カードを初期化すると、CF カードの記録内容はすべて消去されます。プロテクトをかけた画像も消去されますので、あらかじめ記録内容を十分に確認してから行ってください。

1 電源を入れる(p. 31)

2 **液晶モニターを開いて(p. 24)、MENUボタンを押したあと、右ボタンで [(設定)] メニューを選ぶ**

撮影メニュー

▼

3 **上/下ボタンで (カードの初期化)を選び、SETボタンを押す**

4 **左/右ボタンで[OK]を選び、SETボタンを押す**

- 初期化を中止するときは、[キャンセル]を選び、**SET**ボタンを押します。
- 初期化するとき、お使いのCFカードのラベルに記載された容量よりも小さい数値が表示されますが、CF カードやカメラの故障ではありません。

5 **MENUボタンを押す**

- カメラが正しく動作しないときは、CF カードが壊れている可能性があります。初期化すると正しく動作する場合もあります。
- キヤノン製以外のCFカードで正しく動作しないときは、初期化すると正しくお使いになれることがあります。
- 他のカメラやパソコン、周辺機器で初期化したCFカードを使用すると、正しく動作しない場合があります。その際は、このカメラで初期化してください。正しく初期化されないときは、電源を切ってから、CFカードを入れ直し、再度初期化してください。

日付 / 時刻を設定する

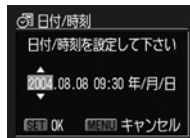
はじめてカメラの電源を入れたとき、または内蔵の充電型リチウムイオン電池の容量がなくなったときは、日付 / 時刻の設定画面が表示されます。手順*4*から操作してください。

1 電源を入れる(p. 31)

2 MENU ボタンを押したあと、右ボタンで[(設定)] メニューを選ぶ

3 上/下ボタンで (日付/時刻)を選び、SETボタンを押す

4 日付と時刻を設定する

- 左/右ボタンで設定する項目を選びます。
- 上/下ボタンで日付や時刻、スタイルを設定します。
- 2030年まで設定できます。

5 SETボタンを押す

6 MENUボタンを押す

- 電池を取り出してから約３週間経過すると、設定した日付 / 時刻やカメラの設定が解除される場合があります。再度、設定し直してください。
- 画像自体に日付 / 時刻を写し込む(p. 53)
- 画像自体に日付/時刻を写し込まずに、プリント時にのみ日付/時刻をプリントするときは、「プリントスタイルを設定する(p. 101)」、または別冊のダイレクトプリントユーザーガイドをご覧ください。

日付 / 時刻用のバッテリーの充電について

- カメラには、日付 / 時刻などの設定を保持するための充電型リチウムイオン電池が内蔵されており、電池を入れたときに充電されます。ご購入時に 4 時間程度、カメラに電池を入れておくか、AC アダプターキット ACK600(別売)を使用し、充電してください。カメラの電源が入っていなくても充電できます。
- 電源を入れたときに、日付 / 時刻設定画面が表示された場合は、内蔵の充電型リチウムイオン電池の容量がなくなっています。上記の方法で充電してください。

言語を設定する

液晶モニターのメニューやメッセージの表示言語を設定します。

1 **電源を入れる(p. 31)**

2 **MENUボタンを押したあと、右ボタンで[(設定)]メニューを選ぶ**

▼

3 **上/下ボタンで(言語)を選んだあと、SETボタンを押す**

4 上/下/左/右ボタンで言語を選んだあと、SETボタンを押す

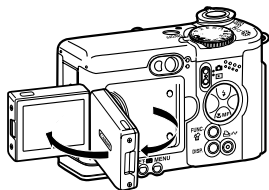
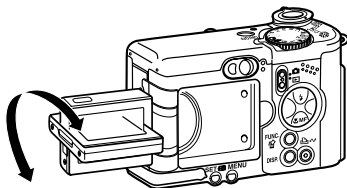
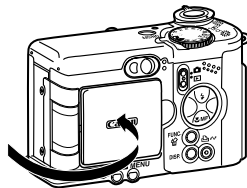
- **SET**ボタンを押さずに、**MENU**ボタンを押すと、言語の設定を変更せずに設定メニューに戻ります。

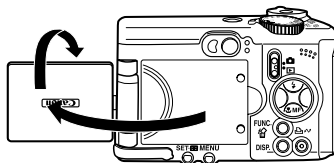
5 MENUボタンを押す

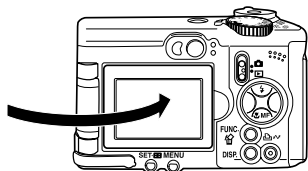
かんたん操作
再生モードのとき、**SET**ボタンを押しながら**MENU**ボタンを押すと、言語設定画面をすぐに表示できます（動画再生時、または別売のプリンター接続時は設定できません）。

液晶モニターの動かしかた

画像を確認しながら撮影するときや、メニュー操作、画像を再生するときは、液晶モニターを使います。液晶モニターは次の範囲で動かせます。

左右に180度開閉できます。

レンズ側に180度、ファインダー側に90度回転します。

液晶モニターを内側にしてカチッと音がするまで閉じると、液晶モニターの表示は自動的に消えます。液晶モニターの保護のため、カメラを使わないときは、必ずこの状態にしてください。

次のように回転することもできます。

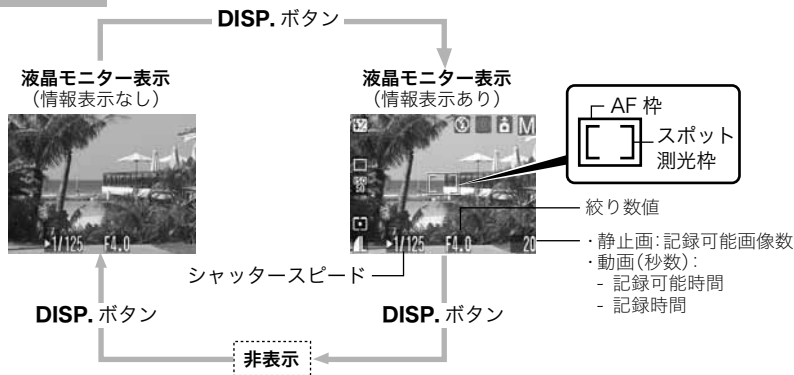
1 液晶モニターを開き、レンズ側に180度回転させる

- この状態のときは、アイコンやメッセージは液晶モニターに表示されません。
- レンズ側から液晶モニターを見て撮影できるように、画像が鏡像(左右反転)で表示されます(鏡像の設定を切ることができます(p. 68))。

2 液晶モニターを閉じる

- カチッと音がするまで液晶モニターを閉じてください。きちんと押し込まれていないと、画像が鏡像で表示され、アイコンやメッセージが表示されません。
- 液晶モニターを閉じると、アイコンやメッセージが表示されるようになり、画像の左右が正しくなります。

太陽や強い光があたると液晶モニターの表示が黒くなることがありますが、故障ではありません。

液晶モニターの使いかた

DISP.ボタンを押すと、液晶モニター表示の切り換えができます。

撮影モードのとき

AF枠は、次のようになります（液晶モニターがついているとき）。

AF枠が[AiAF]（p. 78）のとき	AF枠が[中央]または[アクティブ]（p. 78）のとき
● 緑色表示：撮影準備完了（ピントの合ったAF枠）	● 緑色表示：撮影準備完了
● 非表示：ピントが合いにくいとき	● 黄色表示：ピントが合いにくいとき

撮影モードで表示されるアイコン

*1	撮影モード	p. 38, 74
-2 ··· +2	露出補正	p. 82
	ホワイトバランス	p. 83
	撮影方法	p. 44, 46
ISO 50 ISO 100 ISO 200 ISO 400	ISO感度	p. 86
	色効果	p. 87
	測光方式	p. 81
	圧縮率	p. 40
640 320 160 L M1 M2 S ( )	記録画素数 L判プリント	p. 40 p. 52
	ストロボ	p. 41
	赤目緩和	p. 41
	マクロモード	p. 43
MF	マニュアルフォーカス	p. 89
	縦横自動回転	p. 92
●（赤）	動画撮影	p. 54
3.8x 4.9x 6.1x 7.6x 9.3x 12x	デジタルズーム倍率*2	p. 45
	手ブレ警告	p. 15
	バッテリー残量低下	p. 18

*1 **SCN** モードの各モードアイコン（p. 50）が表示されます。
*2 光学ズームとデジタルズームを組み合わせた倍率です。デジタルズーム時に表示されます。

- 液晶モニター表示（情報表示なし）や、液晶モニター非表示でも、撮影の設定を変更した場合などは、液晶モニターに情報が約6秒表示されます（その時のカメラの設定内容によって表示されないこともあります）。これらの情報が表示されている間に、ストロボ、マクロ、マニュアルフォーカスの設定ができます。
- 、 のアイコンは、情報表示なしのときも表示されます。
- これら以外に前ページの図のようにAF枠、スポット測光枠、シャッタースピード、絞り数値、記録可能画像数または動画記録可能時間が表示されます。
- 、 モードにしたときは、設定にかかわらず、液晶モニターが表示されます。
- シャッターボタンを半押ししたときに、ランプ（上）が橙色に点滅し、液晶モニターに手ブレ警告アイコン（ ）が表示された場合は、光量不足でシャッタースピードが遅くなっているなどの理由が考えられます。ストロボを またはにするか、三脚などでカメラを固定して撮影してください。
- シャッターボタンを押して撮影を終了したとき、約2秒間（確認時間（2～10秒）を変更した場合は、その秒数）撮影した画像が表示されます。画像表示中に**SET**ボタンを押すと、表示され続けます（p. 37）。

再生モードのとき

	圧縮率	p. 40
L M1 M2 S	記録画素数（静止画）	p. 40
♪	WAVE形式の音声メモ	p. 94
AVI	動画	p. 54
	プロテクト情報	p. 96

＊ インデックス再生時（9 画像再生時）には、詳細表示されません。

再生モード（詳細表示）で表示されるアイコン

アイコン	項目	参照
AUTO P Tv Av M (撮影モードアイコン) SCN *1	撮影モード	p. 38, 74
-2・・・±0・・・+2	露出補正	p. 82
AWB (ホワイトバランスアイコン)	ホワイトバランス	p. 83
(色効果アイコン) V N LS S BW	色効果	p. 87
ISO 50 ISO 100 ISO 200 ISO 400	ISO感度	p. 86
(ストロボアイコン)	ストロボ	p. 41
(マクロアイコン)	マクロモード	p. 43
MF	マニュアルフォーカス	p. 89
(測光方式アイコン)	測光方式	p. 81
640 320 160	記録画素数（動画）	p. 40
(バッテリーアイコン) *2	バッテリー残量低下	p. 18

これら以外に、前ページの図のようにシャッタースピード、絞り数値、ヒストグラム、動画記録時間が表示されます。
*1 SCNモードの各モードが表示されます（p. 50）。
*2 情報表示なしのときも表示されます。

画像によっては、以下の情報が表示されることがあります。

アイコン	説明
♪?	WAVEファイル以外の音声ファイル、または、認識できないファイルが付いています。
⚠	DCFの規格に対応していないJPEGファイルです。
RAW	RAW形式のファイルです。
?	認識できない形式のファイルです。

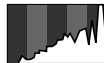
- 液晶モニターの表示 / 非表示の設定は、カメラの電源を切っても記憶され、次回電源を入れたとき、直前の状態で使用できます。ただし、液晶モニターをつけて撮影しているとき、「バッテリーを交換してください。」というメッセージが表示された場合は、次回電源を入れたときに、液晶モニターがつかないことがあります。
- 撮影した画像が液晶モニターに表示されているとき、画像の明るさを判断するためのグラフ（「ヒストグラム」（p. 30））やその他の情報が表示され、画像の明るさを確認できます。必要であれば、露出を補正するなどして、撮り直してください（ヒストグラムが表示されないときは、**DISP.**ボタンを押してください）。
- このカメラで撮影した画像を他のカメラで再生する場合、あるいは他のカメラで撮影した画像を、このカメラで再生する場合、情報を正しく表示できない場合があります。

ヒストグラムについて

● ヒストグラムは、撮影した画像の明るさを判断するためのグラフです。グラフが左に寄るほど暗い画像になり、右に寄るほど明るい画像になります。暗いほうに偏っているときは、露出をプラス側に補正し、明るいほうに偏っているときはマイナス側に補正して撮影します(p. 82)。

ヒストグラム例

暗い画像

普通の明るさの画像

明るい画像

電源を入れる / 切る

電源を入れる

1 **電源ランプ(p. 15)が点灯するまで、電源スイッチを押す**

撮影モードのとき

- 液晶モニターに撮影情報が表示されます。

液晶モニター表示(情報表示なし)か非表示になっているときは(p. 26)、約6秒間で表示が消えます。

再生モードのとき

- 液晶モニターに撮影した画像が表示されます。

電源を切る

1 **電源を切るときは、もう一度電源スイッチを押す**

- 電源を入れると起動音が鳴り、液晶モニターに起動画面が表示されます(起動音、起動画面を変更する(p. 69、72、115))。
- 撮影モード時に液晶モニターが非表示になっているときや、カメラの**AV OUT**端子をテレビに接続しているときは、起動画面は表示されません。

起動画面と起動音を消して起動するには

- **SET**ボタンを押しながら、電源を入れます。

節電機能について

カメラには節電機能がついています。節電機能の設定(p. 70)にしたがって、カメラの電源が自動的に切れたり、液晶モニターが消えたりします。

- **オートパワーオフ**

[入]: 撮影時:
約３分間、何も操作をしないと電源が切れます。
再生時:
約５分間、何も操作をしないと電源が切れます。
プリンター接続時:
約５分間、カメラの操作を何もしないと電源が切れます。

復帰するには、再度電源スイッチを押します。

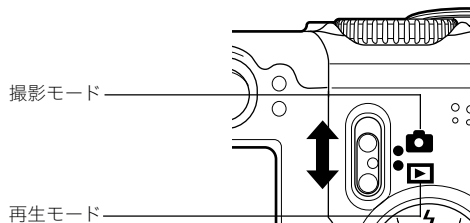
[切]: 節電機能は働きません。

- **ディスプレイオフ**
  液晶モニターをつけてから、約1分間*何も操作をしないと、液晶モニターが消えます。
  * 時間を変更することができます(p. 70)。

  復帰するには、電源スイッチ以外のいずれかのボタンを押します。

オートプレイで自動再生中、およびパソコン接続時は、節電機能は働きません(p. 95, 104)。

撮影 / 再生を切り換える

撮影モードと再生モードを素早く切り換えることができます。撮影直後に画像を確認、消去ができ、またすぐに撮影に戻ることができるので便利です。

撮影モードから再生モードに切り換えた場合、約1分間レンズは収納されません。

撮影するとき(撮影モード)

- モードスイッチを📷側にスライドする

再生するとき(再生モード)

- 液晶モニターを開き、モードスイッチを▶側にスライドする

- プリンター(別売)と接続すると、撮影した画像をプリントできます(ダイレクトプリントユーザーガイド参照)。
- パソコンと接続したときは、撮影した画像をパソコンで表示したり、取り込んだりできます(p. 104)。

プリンター(別売)への接続が完了すると、液晶モニターに 、 または が表示されます。

基本の撮影

各撮影モードで、どのような設定が変更できるかは、巻末の「各撮影モードで設定できる機能一覧(p. 159)」をご覧ください。

撮影する－AUTOオートで撮る

モードダイヤル AUTO

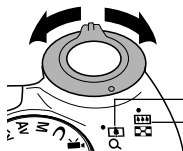
シャッターボタン以外の操作をする必要がなく、カメラまかせの撮影ができます。

1 撮影モードになっていることを確認する(p. 32)

2 撮影モードダイヤルを AUTO にする

3 液晶モニターを使うときは、液晶モニターを開く

4 写したいもの(被写体)にカメラを向ける

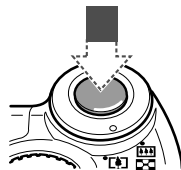
5 ズームレバーで画角(画面内の被写体の大きさ)を決める

- 35mmフィルム換算で、38～114mmの範囲で画角を調節できます。
- 液晶モニターがついているときは、光学ズームと合わせて最大約12倍に拡大して撮影できます(デジタルズーム p. 45)。

6 シャッターボタンを半押しする

- シャッターボタンの押しかたには、「半押し」と「全押し」の2段階があります。

半押し…… 浅く押す

露出、フォーカスが自動設定されます。

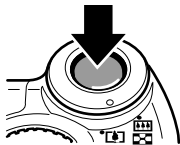
- 撮影準備が完了すると、電子音が2回鳴り、ランプ(上)が緑色また

は橙色に点灯します。液晶モニターがついているときは、AF枠が緑色になります。

- ピントが合いにくいときは、電子音が 1 回鳴りランプ(下)が黄色に点滅します。

7 シャッターボタンを全押しする

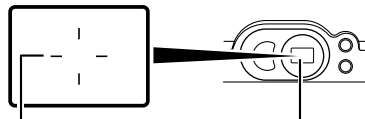
全押し…… 深く押す

撮影します。

- 撮影が終了するとシャッター音が鳴ります。
  シャッター音が鳴るまでカメラを動かさないでください。
- CFカードに記録中はランプ（上）が緑色に点滅します。
- 液晶モニターがついている場合、撮影した画像が約2秒表示されます。

- このモードで変更できる設定(p. 159)
- 撮影直後、液晶モニターに撮影画像を表示する時間を変更したり、表示しないように設定できます(p. 37)。
- シャッターボタンを半押ししたときに、橙色、または黄色のランプが点滅していても、そのまま全押しして撮影できます。
- 撮影した画像は、いったん内部メモリーに保存され、順次CFカードに書き込まれていきます。内部メモリーに空きがある間は、撮影後、すぐに次の撮影ができます。
- 電子音、シャッター音の[入 / 切]は、メニューで設定できます(p. 69)。
- シャッター音を[1、2、3(入)](p. 72)にしていても、消音を[入]に設定している場合は、音は鳴りません。
- 動画撮影時は、シャッター音は鳴りません。
- ストロボ充電中は撮影できません。

ファインダーを使って撮る

液晶モニターを非表示にし(p. 26)、ファインダーを使って撮影すると、消費電力を抑えることができます。

1 被写体に中央の枠(オートフォーカス範囲)を合わせて撮影する

画像中心部を示す目安です　　ファインダー接眼部

AFについて

このカメラのAF機能は、AiAF*を採用しています。
AiAFは、広い測距範囲を持ち、ピント合わせを的確に判断します。ピントを合わせたい被写体が中央部から多少はずれている場合でも、目的の被写体にピントを合わせます。

* Ai＝Artificial intelligence：人工知能
  AF＝オートフォーカス

ファインダーで見える範囲と撮影範囲との違いについて

通常はファインダーから見える範囲よりも広い範囲が撮影されます。実際に撮影される範囲は、液晶モニターで確認できます。
また、ファインダーの特性上、ファインダーから見える範囲と実際に撮影される範囲にズレが生じます。特に、被写体の距離が近い場合には、ズレが大きくなり、ファインダーで見える範囲でも撮影されない場合があります。そのため、マクロモード（p. 43）では必ず液晶モニターを使って撮影してください。

AF補助光について

- 暗い場所などでシャッターボタンを半押ししたときは、ピントを合わせやすくするために、AF補助光投光部が光ることがあります。
- AF補助光を切ることもできます（p. 67）。
  例えば、暗い場所で動物を撮るときなど、AF補助光で動物を驚かせて逃がすことなく撮影できます。
  ただし、以下のことに注意してください。
  - AF補助光を切ると、暗い場所などでピントが合いにくくなることがある
  - AF補助光を切っても、シャッターボタンを半押しすると、赤目緩和ランプが光ることがある

  ストロボ発光前になにも光らないようにするには、撮影メニューの赤目緩和機能を[切]、AF補助光を[切]にしてください。

撮影直後に画像を確認する

モードダイヤル AUTO P Tv Av M SCN

撮影直後に約 2 秒間、撮影した画像を表示します。また、次の方法で設定時間にかかわらず画像を表示します。

- **シャッターボタンを全押しし続ける**
- **撮影した画像が表示されている間にSETボタンを押す***

シャッターボタンを半押しすると解除され、撮影できます。

画像確認中に次のようなことができます。*
- 画像を消去する(p. 62)
- 画像の詳細情報を表示する(p. 28)
- 画像を拡大表示する(p. 56)(**SET**ボタンを押して画像を表示したとき)

* では操作できません。

撮影した画像の確認時間を変更する

画像の確認時間を[切]または[2 秒]～[10 秒]のいずれかに変更できます。

1 MENUボタンを押す

- [(撮影)]メニューが表示されます。

2 上/下ボタンで (撮影の確認)を選ぶ

3 左/右ボタンで確認時間を選び、MENUボタンを押す

- [切]の場合、画像は表示されません。
- [2秒] から [10秒] の場合、シャッターボタンを放しても、設定した時間、画像を表示します。
- 画像の表示中でもシャッターボタンを押すと撮影できます。

基本編

モードダイヤルを使う（イメージゾーン）

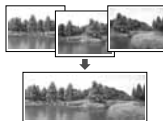
モードダイヤルで被写体に合う撮影条件を簡単に設定できます。

ポートレート

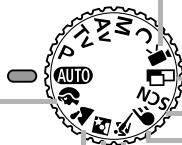
背景をぼかして人物を浮き立たせます。

動画

動画を撮影できます。音声も同時に録音されます（p. 54）。

スティッチアシスト

撮影した画像を合成してパノラマ画像を作れます（p. 47）。

SCN スペシャルシーンモード

8つのそれぞれのシーンに合わせて効果的に撮影できます（p. 50）。

風景

広がりのある風景を撮影できます。

夜景

夕暮れや夜景をバックにした人物を撮影できます。人物にストロボ光をあて、遅いシャッタースピードで撮影するため、人物と背景のそれぞれをきれいに撮影できます。

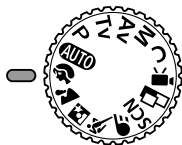
高速シャッター

動きの速い被写体を撮影できます。

スローシャッター

動いている被写体をぶれさせたり、川の流れなどを撮影できます。

1 モードダイヤルを回し、使いたい機能のアイコンを ▭ に合わせる

- 撮影手順は、「AUTO オートで撮る(p. 34)」と同じです。

、 のときは
手ブレを防ぐために必ず三脚をお使いください。

- 各撮影モードで変更できる設定(p. 159)
- 各機能のアドバイス

(ポートレートを撮る)
- 被写体の上半身がファインダーまたは液晶モニターいっぱいになるようにすると、背景を効果的にぼかすことができます。
- レンズを望遠側にすると、背景をさらにぼかすことができます。

(風景を撮る)
- シャッタースピードが遅くなりやすいので、液晶モニターに(手ブレ警告)が表示されたら三脚を使用してください。

(夜景を撮る)
- シャッタースピードが遅くなります。ストロボが発光してもすぐに動かないように、写される人に声をかけてください。
- 日中に撮影すると、AUTO と同じ撮影効果になります。

(高速シャッターで撮る)
- 被写体が暗い場合はノイズが目立つことがあります。

基本編

記録画素数と圧縮率を変更する

モードダイヤル	AUTO P Tv Av M SCN *　*
* 、では、L判プリントモードに設定できません。	

目的に応じて、記録画素数、圧縮率（動画を除く）を変更できます。

記録画素数			撮影の目安
L（ラージ）	2592x1944画素	大きい ↕ 小さい	●A4サイズ以上をプリント
M1（ミドル1）	2048x1536画素		●A4サイズまでをプリント
M2（ミドル2）	1600x1200画素		●Lサイズ / A5サイズをプリント
S（スモール）	640x 480画素		●電子メールで画像を送信 ●より多くの画像を撮影する
または（L判プリント）	●記録画素数はM2（1600x1200）、圧縮率は（ファイン）となります。 ●L判プリントについて（p. 52）		

圧縮率			撮影の目安
S	スーパーファイン	きれい ↕ 普通	より良い画質で撮影する
	ファイン		通常の撮影をする
	ノーマル		より多くの画像を撮影する

動画の場合は、次の記録画素数で撮影できます。

記録画素数	
640	640 x 480画素
320	320 x 240画素
160	160 x 120画素

1 FUNC.ボタンを押す

2 上/下ボタンでL*を選ぶ

*現在の設定が表示されます。

3 **左/右ボタンで設定したい記録画素数を選ぶ**

以外

記録可能画像数
（記録画素数、圧縮率、記録形式を選択したときのみ表示）

4 **SETボタンを押す**

5 **左/右ボタンで設定したい圧縮率を選ぶ**

- 設定したあとシャッターボタンを押せば、すぐに撮影できます。また撮影後は、再びこの画面が表示されます。

6 **FUNC.ボタンを押す**

- 1画像の容量（目安）について（p. 144）
- CF カードの種類別、記録可能画像数について（p. 143）

ストロボを使って撮る

モードダイヤル	AUTO P Tv Av M SCN*
* （打上げ花火）では、発光禁止に設定されます。	

撮影状況に合わせて、ストロボを使って撮影できます。

	赤目緩和オート	明るさに応じて自動的にストロボを発光して撮影します。ストロボ発光の際には、常に赤目緩和ランプを発光します。
	オート	明るさに応じて自動的にストロボを発光して撮影します。
	常時発光（赤目緩和）	常に赤目緩和ランプとストロボを発光して撮影します。
	常時発光	常にストロボを発光して撮影します。
	発光禁止	撮影時にストロボは発光しません。

1 **ボタンを押してストロボモードを切り換える**

- 液晶モニターに、選択したストロボモードが表示されます。

基本編

- ϟボタンを押すたびに設定が切り換わります。

赤目緩和機能[入]のとき

赤目緩和機能[切]のとき

- 撮影モードによっては設定できないことがあります(p. 159)。

2 撮影する

- シャッターボタンを半押ししたときに、ランプ(上)が橙色に点灯した場合は、ストロボが発光します(では発光しません)。
- 撮影手順は、「AUTO オートで撮る(p. 34)」と同じです。

ISO 感度を上げてストロボ撮影する場合、被写体との距離が近いほど、白飛びしやすくなります。

- **M**以外のときは、自動調光で発光します。
- ストロボの発光は、プリ発光とメイン発光の２回行われます。プリ発光(ストロボ撮影に必要な露出情報を得るための予備的な発光)で得た被写体の露出情報をもとにして、メイン発光(ストロボ撮影を行うための発光)に必要な発光量が決められ、最適な発光量でストロボ撮影が行われます。
- **M**のときはマニュアル発光します。
- ストロボ同調最高シャッター速度は 1/500 秒です。1/500秒よりも高速のシャッタースピードを設定した場合は、自動的に1/500秒に再設定され、撮影されます。
- **M**のときは、ストロボ発光量を変えられます(p. 88)。
- ストロボ充電中は、撮影できません。
- ストロボの充電には約10秒かかる場合があります。充電時間は使用状況やバッテリーの残量などにより変わります。
- **P**、**Tv**、**Av**、**M**の場合、設定したストロボモードは、カメラの電源を切っても解除されません。

赤目緩和機能を設定する

暗いところでストロボを発光するとき、赤目緩和ランプを発光します。ストロボの光が目に反射して目が赤く光るのを防ぎます。

1 [(撮影)]メニューの (赤目緩和機能)で[入]を選ぶ

- 液晶モニターにが表示されます。

- **赤目緩和で撮影するときは**
  写される人が赤目緩和ランプを見ていないと効果がありません。ランプを見るように声をかけてください。また、「レンズを広角側にする」、「室内を明るくする」、「写したい人に近づく」と、より効果が上がります。
- スペシャルシーンモード(p. 50)でのときは、赤目緩和機能は設定できません。

至近距離で撮る(マクロ)

モードダイヤル	AUTO P Tv Av M SCN*
* 、では、マクロに設定できません。	

レンズ前面から被写体までの距離が5～45cm(ワイド端)/25cm～45cm(テレ端)のときは、マクロモードで撮影します。
花やアクセサリなどの小物や特定の部分を拡大して撮影したいときに使います。

1 DISP.ボタンを押して液晶モニターをつける

2 ボタンを押す

- 液晶モニターにが表示されます。
- 再度ボタンを押すとマクロモードを解除できます。

3 撮影する

- シャッターボタンを半押しすると、ランプ(下)が黄色に点灯します。

基本編

- 撮影手順は、「AUTO オートで撮る(p. 34)」と同じです。

- マクロモードでは、必ず液晶モニターを使って撮影してください。ファインダーを使っても撮影できますが、その場合は撮影範囲がずれます(p. 36)。
- 被写体に最も近づいたときの撮影範囲は、ワイド端 *1 で約 56 × 42mm、テレ端 *2 では、約87×65mmとなります。また、ズーム位置がテレ端とワイド端の間のとき、レンズ前面から被写体までの距離は、テレ端と同じになります。
- ストロボをお使いになると、画像の明るさが適切にならないことがあります。

*1 最も広角側
*2 最も望遠側

セルフタイマーで撮る

モードダイヤル AUTO P Tv Av M SCN

1 FUNC.ボタンを押し、上/下ボタンで□*(ドライブモード)を選ぶ

* 現在の設定が表示されます。

2 左/右ボタンで または を選び、FUNC.ボタンを押す

- は、シャッターボタンを全押ししてから10秒後に、は2秒後に、撮影されます。

3 撮影する

- を選んだときは、シャッターボタンを全押しすると、セルフタイマーランプが点滅します。撮影 2 秒前になるとセルフタイマー音が鳴り、点滅が速くなります。

- を選んだときは、シャッターボタンを全押しすると、セルフタイマーランプが最初から速く点滅し、2秒後に撮影されます。
- 撮影手順は、「AUTO オートで撮る(p. 34)」と同じです。

- セルフタイマー音は、[(マイカメラ)]メニューの[セルフタイマー音]で変更できます(p. 72)。
- ワンポイントアドバイス(p. 147)

デジタルズームで撮る

モードダイヤル AUTO P Tv Av M SCN

デジタルズームを使うと、下記の倍率(目安)に拡大して撮影できます。

- 3.8倍、4.9倍、6.1倍、7.6倍、9.3倍、12倍

1 DISP.ボタンを押して、液晶モニターをつける

2 [(撮影)]メニューから(デジタルズーム)を選ぶ

- メニューの選択と設定のしかた(p. 64)

3 左/右ボタンで[入]を選び、MENUボタンを押す

4 ズームレバーを[🌲]側に押す

- 最も望遠側まで拡大すると、いったん停止します。再度、ズームレバーを[🌲]側に押すと、さらに拡大できます。
- [🌲🌲🌲]側に押すと、倍率が下がります。

光学ズームとデジタルズームを組み合わせた倍率を表示

5 撮影する

- 撮影手順は、「AUTO オートで撮る(p. 34)」と同じです。

液晶モニターが消えているときは、デジタルズームが使えません。

- デジタルズームは、拡大するほど画像が粗くなります。
- デジタルズームを使うと、手ブレしやすくなりますので、三脚をお使いになることをおすすめします。

連続して撮る

モードダイヤル P Tv Av M SCN

シャッターボタンを全押ししている間、連続して撮影します。

⧉	通常連続撮影	液晶モニターで画像を確認しながら連続撮影したいときにおすすめします。ただし、シャッター間隔は H⧉ より長くなります。
H⧉	高速連続撮影	短いシャッター間隔で連続撮影したいときにおすすめします。ただし、画像を確認しながら連続撮影できません。

1 FUNC.ボタンを押す

2 上/下ボタンで□*(ドライブモード)を選ぶ

* 現在の設定が表示されます。

3 左／右ボタンでまたはを選び、FUNC.ボタンを押す

4 シャッターボタンを半押ししてピントを合わせる

5 シャッターボタンを全押しして撮影する

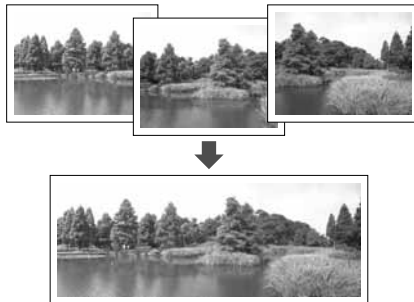
- シャッターボタンを放すと撮影が終了します。
- 連続撮影速度は以下のようになります。
  のとき…約1.5画像/秒*
  のとき…約2.0画像/秒*

  * ラージ／ファイン、液晶モニター非表示時（当社測定条件によるもので、被写体、撮影条件などにより変わります。）

- 内部メモリーがいっぱいになると、撮影間隔が長くなります。
- ストロボが発光する場合には、ストロボ光の充電時間が必要なため、撮影間隔が長くなります。

パノラマ画像を撮る（スティッチアシスト）

モードダイヤル

撮影した画像をパソコンで合成し、パノラマ画像を作成できます。

パソコンでの画像合成には、付属のソフトウェア「PhotoStitch」をお使いください。

被写体のとらえかた

PhotoStitch は、隣り合う画像の共通部分を見つけて合成処理を行います。共通部分には、できるだけ特徴のある被写体(目印となる被写体)を入れて撮影してください。

- 隣り合う画像の共通部分は、画像の幅の30〜50% になるように撮影してください。また、上下のズレは、画像の高さの10%以内で撮影します。
- 共通部分には、動いている被写体が入らないように注意してください。
- 遠くの被写体と近くの被写体が混在する画像をスティッチしないでください。ゆがんだり、二重に写ったりすることがあります。
- 撮影時の明るさはできるだけ揃えてください。画像の明るさが違いすぎると、不自然な画像になってしまうことがあります。
- 遠くの風景を撮るときは、カメラを中心に回転して撮影します。
- 至近距離では、カメラをスライド(カメラを被写体に対して平行移動)させます。

撮影する

スティッチアシストには、次の 2 つの撮影方向があります。

	左➡右	左から右方向へ水平に撮影します。
	左⬅右	右から左方向へ水平に撮影します。

1 撮影モードダイヤルをにする

- 液晶モニターがつきます。

2 左 / 右ボタンで撮影方向を選び、SET ボタンを押す

- 撮影方向が設定されます。

- **SET** ボタンを押さずに、シャッターボタンを押して撮影することもできます。

3 最初の画像を撮影する

- 1 画像目の撮影で、露出やホワイトバランスがロックされます。

4 最初の画像に重ね合わせ、次の画像を撮影する

のとき

- 画像が重なる部分は、多少ずれても合成時に修正されます。
- 左/右ボタンを押すと撮影済みの画像に戻り、撮影のやり直しができます。

5 同様の操作で3画像目以降を撮影する

- 最大26画像まで撮影できます。

6 撮影が終了したらSETボタンを押す

- マニュアルホワイトバランス(p. 84)の場合、では基準となる白データの取り込みができません。あらかじめ他の撮影モードで白データを取り込んでおいてください。
- 2 画像目以降の撮影では、最初の撮影の設定が適用されます。
- テレビと接続しても、画像をテレビに表示して撮影できません。

このモードで変更できる設定(p. 159)

SCNスペシャルシーンモードで撮る

モードダイヤル SCN

モードを選択するだけで、以下の８つの「シーン」に最適な撮影ができます。

新緑 / 紅葉	新緑、紅葉、桜など、木々や葉を色鮮やかに撮影できます。
スノー	雪景色をバックにしても人物が暗くならず、青みも残らないで撮影できます。
ビーチ	太陽光の反射の強い海辺や砂浜でも人物などが暗くならずに撮影できます。
打上げ花火	打上げ花火を最適な露出で鮮やかに撮影できます。
水中	ウォータープルーフケースWP-DC50(別売)を使った水中での撮影に最適です。水中に最適なホワイトバランスに設定され、青みをおさえた自然な色合いで撮影できます。ストロボ発光はなるべくしないように制御されます。
パーティー / 室内	蛍光灯や電球のもとで、手ブレを抑えて被写体に忠実な色味で撮影できます。ストロボ発光はなるべくしないように制御されます。
キッズ&ペット	よく動きまわる子供やペットをシャッターチャンスを逃さずに撮影できます。
ナイトスナップ	夕暮れや夜景をバックに人物をスナップ撮影したいときに、三脚がなくても手ブレを少なく撮影できます。

1 撮影モードダイヤルをSCN(スペシャルシーンモード)にする

- 現在設定されているスペシャルシーンモード画面が表示されます。

2 左/右ボタンで撮影したいシーンを選び撮影する

- シーンを切り換えるたびに、シーンモード名称が約６秒間表示されます。
- 以外の撮影手順は、「AUTO オートで撮る(p. 34)」と同じです。
- での撮影手順は、ウォータープルーフケースWP-DC50(別売)に付属のウォータープルーフケースユーザーガイドをご覧ください。

新緑 / 紅葉 ⇔ スノー ⇔ ビーチ ⇔ 打上げ花火

ナイトスナップ ⇔ キッズ&ペット ⇔ パーティー / 室内 ⇔ 水中

- では、シャッタースピードが遅くなります。手ブレを防ぐために必ず三脚をお使いください。
- 、、、では、ISO感度が上がることにより、画像にノイズが増えることがあります。
- はレンズ前面から被写体までの距離が1～4m（テレ端）/1m～∞（その他のズーム位置）でお使いください。

- このモードで変更できる設定（p. 159）
- では、液晶モニターを使って撮影することをおすすめします。
- 被写体によっては、思いどおりの画像にならない場合があります。
- 水中で撮影する場合には、必ずいったん電源を切り、ウォータープルーフケース WP-DC50（別売）を装着してください。
- 、のときは、ウォータープルーフケースWP-DC50（別売）の装着をおすすめします。

L判プリントモードで撮る

モードダイヤル AUTO P Tv Av M SCN

L判やはがきの大きさに合った画像サイズで撮影できます。

- 通常の撮影画像をL判やはがきサイズにプリントすると、画像の上端、下端がプリントできないことがあります。
- L判プリントモードで撮影すると、あらかじめ液晶モニターでプリント範囲（縦横比約3:2）を確認できます。また、記録画素数が**M2**（1600×1200画素）、圧縮率が（ファイン）に固定され、データ容量が少なくなります。

1 FUNC.ボタンを押す

2 上/下ボタンでL*を選ぶ

*現在の設定が表示されます。

3 左/右ボタンで（L判プリント）を選ぶ

- 設定したあとシャッターボタンを押せば、すぐに撮影できます。また撮影後は、再びこの画面が表示され、設定を変更できます。

4 FUNC.ボタンを押す

5 撮影する

- シャッターボタンを半押しすると、プリントされない領域（上端、下端）はグレーになります。
- 撮影手順は「AUTO オートで撮る（p. 34）」と同じです。

- デジタルズームが[入]になっているときにを選択すると、デジタルズームは解除されます。

- 撮影モードによっては設定できないこともあります。「各撮影モードで設定できる機能一覧」（p. 159）をご覧ください。
- [日付写し込み]の設定（p. 53）が[日付のみ]、[日付＋時刻]のときは手順***2***、***3***の画面には、が表示されます。
- プリントについては、ダイレクトプリントユーザーガイドを参照してください。

画像に日付を写し込む

(L判プリント)のとき、画像に日付を写し込むことができます。パソコンやプリンターで操作する必要はありません。

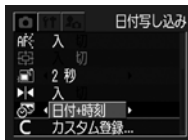
- あらかじめカメラの日付/時刻が正しく設定されていることを確認します(p. 21)。
- (L判プリント)以外では、画像に日付を写し込めません。

1 液晶モニターにが表示されていることを確認する

2 [(撮影)]メニューから(日付写し込み)を選ぶ

- メニューの選択と設定のしかた(p. 64)

3 左/右ボタンで[切][日付のみ][日付+時刻]のいずれかを選ぶ

- 日付/時刻のスタイル(p. 21)

4 MENUボタンを押す

5 撮影する

- 撮影手順は、「AUTO オートで撮る(p. 34)」と同じです。

- 画像に写し込んだ日付は消去できません。
- CP プリンター使用時に、クレジットカードサイズ(54mm × 86mm)でプリントすると、日付の一部がプリントされないことがあります。

基本編

動画を撮る

モードダイヤル

動画を撮影するときに使います。記録画素数は、[640(640×480)]、[320(320×240)]、[160(160×120)]のいずれかから選べます(p. 40)。

1 撮影モードダイヤルを にする

- 液晶モニターがつき、記録可能時間(秒数)が表示されます。

2 シャッターボタンを全押しする

- 撮影が開始され、同時に音声も記録されます。
- 撮影中は、液晶モニター右上に赤丸が表示されます。

3 撮影を終了するときは、再度シャッターボタンを全押しする

- 1 回の最長撮影時間は、640:30 秒(10 フレーム / 秒)、320・160:3分(15フレーム/秒)です(当社測定条件による)。

 * お使いのCFカードによって、撮影時間が異なります。詳細はp. 143をご覧ください。

最長撮影時間は、被写体、撮影状況などにより変わることがあります。これらの時間が経過するか、またはCFカードの容量がいっぱいになると自動的に撮影が終了します。

- 以下のようなCFカードをお使いのときは、撮影中に正しい撮影時間が表示されなかったり、撮影が途中で中断することがあります。
  - 書き込み速度が遅い
  - 他のカメラやパソコンで初期化した
  - 撮影 / 消去を繰り返した

  撮影時間が正しく表示されないときも、CFカードには実際に撮影した時間の動画が記録されています。CF カードをこのカメラで初期化すると、正しい時間が表示されます(書き込み速度の遅いCFカードを除く)。
- 動画を撮影するときは、このカメラで初期化したCFカードをお使いください(p. 19)。付属の CF カードは、そのままお使いになれます。
- 撮影中は、マイクに触れないようにしてください。
- AE、AF、ホワイト バランス、ズーム(画角)は、撮影を開始したとき(最初のフレーム)の設定値に固定されます。

- 撮影後、CF カードへの記録中はランプ(上)が緑色に点滅します。このときは撮影できません。

- このモードで変更できる設定(p. 159)
- 音声は、モノラルで録音されます。
- 動画撮影時は、シャッター音は鳴りません。
- 動画ファイル(ファイル形式:AVI、圧縮形式:Motion JPEG)をパソコンで再生するには、QuickTime 3.0以上が必要です(付属のCanon Digital Camera Solution Diskには、Windows版のQuickTimeが収められています。なお、Mac OS 8.5以降には標準装備されています)。

1画像ずつ見る（シングル再生）

撮影した画像を液晶モニターに表示します。

1 液晶モニターを開く

- 液晶モニターの向きは、自由に調整できます。

2 モードスイッチを ▶ 側にスライドする

- 最後に撮影した画像が表示されます（シングル再生）。

3 左/右ボタンで表示する画像を切り換える

- 左ボタンで前の画像、右ボタンで次の画像が表示されます。ボタンを押し続けると早く進みます。ただし、表示される画像は粗くなります。

他のカメラで撮影したり、パソコンまたは他のアプリケーションソフトウェアで編集した画像は、このカメラで再生できないことがあります。

- **DISP.** ボタンを押すと、表示されている画像の情報が表示されます（p. 28）。
- 🗑ボタンを押すと、表示されている画像を簡単に消去できます（p. 62）。

🔍拡大して見る

シングル再生時、表示している画像を最大約10倍に拡大表示します。

1 モードスイッチを ▶ 側にスライドする

2 ズームレバーを🔍側に押す

- 上/下/左/右ボタンで表示位置を変更できます。
- **SET** ボタンを押しながらズームレバーを🔍側に押すと、画像が約2.5倍→約5倍→約10倍の順に拡大表示されます。

拡大表示を解除する

1 ズームレバーを▦側に押す

動画、インデックス再生時は拡大表示できません。

撮影直後に液晶モニターに表示される画像も、拡大して見ることができます（p. 37）。

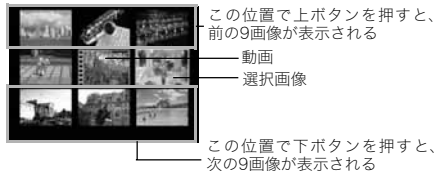
▦9画像ずつまとめて見る（インデックス再生）

撮影した画像を、9画像ずつまとめて表示します。

1 モードスイッチを▶側にスライドする

2 ズームレバーを▦側に押す

- 9画像ずつまとめて表示されます（インデックス再生）。

3 上／下／左／右ボタンで選択画像を切り換える

4 ズームレバーを🔍側に押す

- インデックス再生が終了し、シングル再生に戻ります。

DISP.ボタンを押すと、選択している画像の情報が表示されます（p. 28）。

9画像ずつ表示を切り換える

インデックス再生時、9画像ずつまとめて表示します。

1 インデックス再生時(p. 57)、ズームレバーを側に押す

- ジャンプバーが表示されます。

2 画像を切り換える

ジャンプバー

- 左/右ボタンで、前または次の9画像が表示されます。
- **SET**ボタンを押しながら左/右ボタンを押すと、最初または最後の9画像が表示されます。

3 ズームレバーを側に押す

- ジャンプバーが消え、インデックス再生に戻ります。
- もう一度、ズームレバーを側に押すと、シングル再生に戻ります。

動画を見る / 動画を編集する

動画を見る

で撮影した動画を再生します。

1 モードスイッチを側にスライドする

- インデックス再生のときは、動画は再生されません。

2 左/右ボタンで動画を選び、SETボタンを押す

- SET が表示されている画像が動画です。
- 動画再生パネルが表示されます。

3 左/右ボタンで (再生)を選び、SETボタンを押す

動画再生パネル
音量

- 動画と音声が再生されます。
- 上/下ボタンで音量を調節できます。

- 再生が終了すると、最後のフレームが表示されたままで停止します。
その状態で **SET** ボタンを押すと、動画再生パネルが表示されます。再度 **SET** ボタンを押すと、最初のフレームから再生されます。

再生の一時停止 / 再開

- **SET**ボタンを押すと再生を一時停止します。再度**SET**ボタンを押すと、再生を続けます。

画像送り / 戻し

- 左 / 右ボタンで次のいずれかの操作を選び、**SET** ボタンを押します。

(終了)	:シングル再生に戻る
(先頭フレーム)	:最初のフレームを表示
(フレーム戻し)	:フレームを戻す(**SET** ボタンを押し続けると巻き戻ります)。
(フレーム送り)	:フレームを送る(**SET** ボタンを押し続けると早送りします)。
(最終フレーム)	:最後のフレームを表示

パソコンで動画を再生するとき、パソコンの性能によっては、画像がフレーム(コマ)落ちしたり、音声が途切れることがあります。

- 設定メニューでも、動画の再生音量を調節できます(p. 69)。
- 設定メニューの[消音]を[入]にすると(p. 69)、音量は0になりますが、上/下ボタンでの音量調節は可能です。
- テレビで動画を再生するときの音量は、テレビで調節してください。

動画を編集する

撮影した動画の前部、後部の不要な部分を削除できます。

1 編集したい動画を選び、SETボタンを押す

- 動画を見る(p. 58)

2 左/右ボタンで (編集)を選び、SETボタンを押す

- 動画編集パネルと動画編集バーが表示されます。

3 上/下ボタンで編集方法を選ぶ

- （前部を削除）：動画の前部を削除
- （後部を削除）：動画の後部を削除
- （終了）：動画編集を中止し、動画再生パネルに戻る

4 左/右ボタンで削除する位置を選ぶ

5 上/下ボタンで ▶ （再生）を選び、SETボタンを押す

- 仮編集された動画が再生されます。
- 再生中に**SET**ボタンを押すと、再生が停止します。

6 上/下ボタンで （保存）を選び、SET ボタンを押す

- を選ぶと、編集内容を保存せずに動画再生パネルに戻ります。

7 左/右ボタンで[上書き保存]または[新規保存]を選び、SET ボタンを押す

- [上書き保存]：
  編集前の画像と同じファイル名で保存されます。編集前のデータは残りません。
- [新規保存]：
  編集した画像に新しいファイル名をつけて保存されます。編集前のデータは残ります。
- CFカードの空き容量が足りないときは、上書き保存しかできません。このとき、動画編集バーのカウンターに▲が表示されます。

- プロテクトされている動画は編集できません(p. 96)。
- 編集した動画を保存するとき、約3分かかることがあります。途中で電池がなくなると、編集した動画を保存できないことがありますので、動画を編集するときは未使用の単3形アルカリ電池かフル充電の単3形ニッケル水素電池、あるいはACアダプターキットACK600(別売)の利用をおすすめします(p. 131)。

編集前の長さが1秒以上の動画を1フレーム単位で編集できます。

消去

消去した画像は復元できません。十分に確認してから消去してください。

1画像ずつ消去する

1 モードスイッチを▶側にスライドする

2 左/右ボタンで消去したい画像を選び、ボタンを押す

- 確認画面が表示されます。

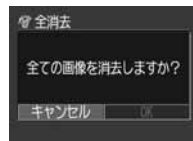
3 左/右ボタンで[消去]を選び、SETボタンを押す

- 消去を取り消すときは、[キャンセル]を選び、**SET**ボタンを押します。

プロテクトされている画像は消去できません(p. 96)。

全画像を消去する

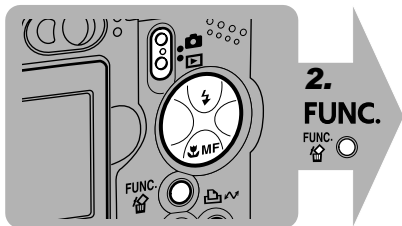
1 [▶(再生)]メニューから(全消去)を選び、SETボタンを押す

- 確認画面が表示されます。

2 左/右ボタンで[OK]を選び、SETボタンを押す

- 消去を取り消すときは、[キャンセル]を選び、**SET**ボタンを押します。

- [全消去]を行うと、CFカード内に記録されている画像データをすべて消去します。
- プロテクトされている画像は消去できません(p. 96)。
- CFカード内の画像だけでなく他のデータもすべて削除したいときは、「CFカードを初期化する」(p. 19)をご覧ください。

メニューの選択と設定のしかた

FUNC.ボタンを押して設定する（撮影モードのとき）

2. FUNC.

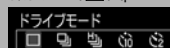
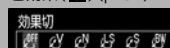
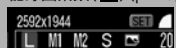
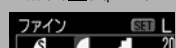
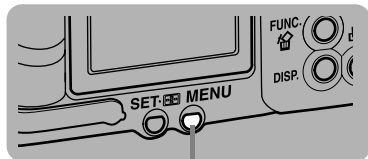
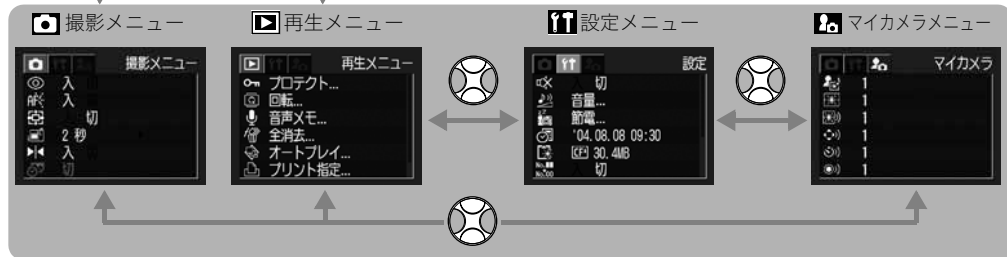
1 モードスイッチを側にスライドする

2 FUNC.ボタンを押す

3 上/下ボタンでメニュー項目を選ぶ

4 左/右ボタンで設定したい内容を選ぶ

5 FUNC.ボタンを押す

6 撮影する

MENUボタンを押して設定する

1 MENUボタンを押す

2 左/右ボタンでメニューを切り換える

- ズームレバーでも、同様にメニューの切り換えができます。

3 上/下ボタンでメニュー項目を選ぶ

4 左/右ボタンで設定したい内容を選ぶ

5 MENUボタンを押す

- 「. . . 」のある項目では、**SET**ボタンを押して、次のメニューを表示してから設定します。設定後、再度**SET**ボタンを押して設定内容を確定します。
- 撮影モードのときは、シャッターボタンを半押ししてもメニューを終了できます。

- 撮影モードによって、選択できないメニュー項目があります(p. 159)。
- マイカメラメニューの設定内容 と に は、お好きな画面や音を登録できます。詳しくは、「マイカメラコンテンツを登録する(p. 116)」、またはソフトウェアクイックガイドをご覧ください。
- [日付 / 時刻]、[言語]、[ビデオ出力方式]以外のメニュー設定と、ボタン操作によるカメラの設定を、初期設定に戻せます(p. 73)。

メニュー設定項目と初期設定

撮影メニュー

メニュー項目	設定内容	参照先
AFフレーム	AF枠をカメラが自動的に選択して撮影するか、あらかじめ中央、もしくは指定したAF枠に固定して撮影するかを設定します。 **・AiAF* / 中央 / アクティブ**	78
赤目緩和機能	ストロボ発光のときの赤目緩和ランプの発光の有無を設定します。 **・入* / 切**	43
スポット測光枠	測光方式で [スポット測光枠] を選んだとき、測光を中央枠内に固定するか、指定されたAF枠内にするかを選択します。 **・中央固定* / AF枠連動**	81
MF拡大表示	マニュアルフォーカスのとき拡大表示するかしないかを設定します。 **・入* / 切**	89
AF補助光	AFのときに、必要に応じてAF補助光の発光を設定します。 **・入* / 切**	36
デジタルズーム	光学ズームと合わせて、拡大するかしないかを設定します。 **・入 / 切***	45
撮影の確認	撮影してシャッターボタンを放したあと、撮影した画像を液晶モニターに表示する時間を設定します。 **・切 / 2*～10秒**	37

* 初期設定

メニュー項目	設定内容	参照先
鏡像表示	液晶モニターを180度回転させたとき、画像を鏡のように反転させて表示するかしないかを設定します。 **･入* / 切**	25
日付写し込み	のとき画像に入れる日付の設定をします。 **･切* / 日付のみ / 日付＋時刻**	53
C カスタム登録	撮影メニュー、ファンクションメニューで設定した内容をモードダイヤルのCに登録します。	91

再生メニュー

メニュー項目	設定内容	参照先
プロテクト	画像を消去できないようにプロテクト(保護)を設定します。	96
回転	時計方向に90度、270度に回転して画像を表示します。	93
音声メモ	画像に音声を追加します。	94
全消去	CFカードに記録されている画像をすべて消去します(プロテクトされている画像を除く)。	62
オートプレイ	記録した画像を自動再生します。	95
プリント指定	画像をカメラダイレクト対応プリンターまたはプリント取り扱い店でプリントするとき、プリントする画像の選択や枚数を指定します。	99
送信指定	パソコンに取り込む画像を、あらかじめカメラで指定します。	103

* 初期設定

設定メニュー

メニュー項目	設定内容	参照先
消音	起動音、シャッター音、操作音、セルフタイマー音を一度に消すときは[入]に設定します。詳しくは「[(設定)]メニューの[消音]と、[(マイカメラ)]メニューの音の各設定について」(p. 72)をご覧ください。 **・入 / 切*** ただし、警告音は、[入]にしても鳴ります。	-
音量	**SET** ボタンを押すと、起動音量、操作音量、セルフタイマー音、シャッター音量、再生音量を設定できます。ただし、[消音]が[入]のときは設定できません。 ・□□□□□ (切)　・■■■□□ (3) ・■□□□□ (1)　・■■■■□ (4) ・■■□□□ (2)*　・■■■■■ (5)	
	起動音量 カメラ起動時の音量を調節します。	31
	操作音量 シャッターボタン以外のボタンを操作したときの音量を調節します。	-
	セルフタイマー音 撮影2秒前から撮影するまでのセルフタイマー音の音量を調節します	44
	シャッター音量 シャッターボタンを全押ししたときの音量を調節します。動画撮影時には、シャッター音は鳴りません。	34
	再生音量 動画再生時、または音声メモの音量を調節します。	58、94

メニュー項目	設定内容	参照先
節電	SETボタンを押すと、オートパワーオフとディスプレイオフを設定できます。 **オートパワーオフ** 一定時間カメラの操作をしないときに、自動的に電源を切るかどうかを設定します。 ・入* / 切	31
	ディスプレイオフ カメラの操作をしないときに、自動的に液晶モニターを消す時間を設定します。 ・10秒　・1分* ・20秒　・2分 ・30秒　・3分	32
日付 / 時刻	日付、時刻、日付スタイルを設定します。	21
カードの初期化	CFカードを初期化します。	19
番号リセット機能	ファイル番号のつけ方を設定します。 ・入 / 切*	113
縦横自動回転	縦位置で撮影した画像を自動的に回転して表示するかどうかを設定します。 ・入* / 切	92
距離表示	MFインジケーターの距離表示の単位を設定します。 ・m/cm* ・ft/in	89

* 初期設定

メニュー項目	設定内容	参照先
言語	液晶モニターのメニューやメッセージを、どの言語で表示するかを設定します。 ・English（英語） ・Deutsch（ドイツ語） ・Français（フランス語） ・Nederlands（オランダ語） ・Dansk（デンマーク語） ・Suomi（フィンランド語） ・Italiano（イタリア語） ・Norsk（ノルウェー語） ・Svenska（スウェーデン語） ・Español（スペイン語） ・汉语 （中国語） ・Русский（ロシア語） ・Português（ポルトガル語） ・日本語* 画像の再生時に、**SET** ボタンを押しながら **MENU** ボタンを押しても、表示する言語を変更できます。	22
ビデオ出力方式	ビデオ出力方式を設定します。 ・NTSC* ・PAL	135

応用編

マイカメラメニュー

このカメラでは、起動画面、起動音、操作音、セルフタイマー音、シャッター音を自分好みに設定できます。CFカードに記録してある画像や新たに録音した音声をその場ですぐにカメラに登録し、マイカメラコンテンツとして利用することもできます(各項目の 2 、3 に登録できます)。
また、付属のソフトウェアを使ってパソコンにある画像や音声を登録したり、オンラインフォトサービス「CANON iMAGE GATEWAY」(p. 119)からコンテンツをダウンロードして登録することもできます。詳しくは、付属のソフトウェアクイックガイドをご覧ください。

メニュー項目	設定内容	参照先
セット	起動画面、起動音、操作音、セルフタイマー音、シャッター音に共通するテーマを選びます。*1	115
起動画面	電源を入れたときの起動画面を選びます。	115
起動音	電源を入れたときの起動音を選びます。*1	115
操作音	シャッター以外のボタンを操作したときの音を選びます。*1	115
セルフタイマー音	セルフタイマー撮影で2秒前をお知らせする音を選びます。*1	115
シャッター音	シャッターを全押ししたときの音を選びます。動画撮影時には、シャッター音は鳴りません。*1	115
マイカメラの設定内容	(切) / 1 *2 / 2 / 3	115

*1 [(設定)]メニューの[消音]と、[(マイカメラ)]メニューの音の設定について
起動音、操作音、セルフタイマー音、シャッター音を消すときは、[消音]を[入]にします。[消音]を[入]にすると、音の各設定は[1 、2 、3 (入)]になっていても、音は鳴りません。警告音は[消音]を[入]にしていても、鳴ります。

*2 初期設定

設定を初期状態に戻す

カメラの設定を初期設定に戻します。

1 カメラの電源を入れる

- 撮影モード、再生モードのどちらでも構いません。

2 MENUボタンを5秒以上押し続ける

- 液晶モニターに、「初期設定に戻しますか？」のメッセージが表示されます。

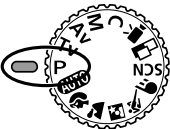
3 左/右ボタンで[OK]を選び、SETボタンを押す

- 初期化中は右のような画面が表示され、初期化が終わると通常画面に戻ります。
- 初期設定に戻すのをやめるときは、[キャンセル]を選びます。

- 以下の設定は、初期状態に戻りません。
  - [(設定)]メニューの[日付 / 時刻]、[言語]、[ビデオ出力方式]の設定(p. 70、71)
  - マニュアルホワイトバランスで記憶した白データ(p. 84)
  - 新しく登録したマイカメラコンテンツ(p. 116)
- パソコンまたはプリンター接続時は初期状態に戻せません。

カメラが撮影モードで、撮影モードダイヤルが**C**のときは、**C**に登録してある設定のみ初期設定に戻ります。それ以外のときは、**C**の内容は初期化されません。

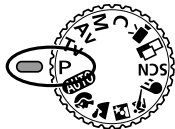
モードダイヤルを使う(クリエイティブゾーン)

モードダイヤル **P Tv Av M**

シャッタースピードや絞り数値を選択するなど、カメラの設定を自由に変えて撮影できます。
設定を変更した後の撮影手順は、「AUTO オートで撮る(p. 34)」と同じです。

各撮影モードで、どのような設定が変更できるかは、巻末の「各撮影モードで設定できる機能一覧(p. 159)」をご覧ください。

使いかた

1 撮影モードになっていることを確認する

2 モードダイヤルを回し、使いたい機能のアイコンを ▬ に合わせる

- 液晶モニターがついている場合、自動的にシャッタースピードまたは絞り数値が液晶モニターに表示されます。

シャッタースピード　絞り数値

- 選択している機能により、以下のように操作します。

P	シャッタースピードと絞り数値を自動で設定
Tv	左/右ボタンでシャッタースピードを選ぶ
Av	左/右ボタンで絞り数値を選ぶ
M	SET ボタンでシャッタースピードと絞り数値の選択を切り換え、左/右ボタンでシャッタースピードと絞り数値を選ぶ

- シャッタースピードと絞り数値が白字で表示されているときは、適正露出です。

3 撮影する

P プログラムAEで撮る

被写体の明るさに応じて、シャッタースピードと絞り数値をカメラが自動的に設定します。

● 適正露出が得られない場合、シャッタースピードと絞り数値は赤字で表示されます。次の方法で撮影すると、適正露出が得られ、白字で表示されることがあります。
- ストロボを使用する
- ISO感度を変更する
- 測光方式を変更する

PとAUTOの違い

● Pでは、次の機能を使用できますが、AUTOではできません。

・露出補正　・ホワイトバランス
・ISO 感度の変更　・ストロボ（常時発光）
・AF フレームの変更
・色効果の変更　・連続撮影
・測光方式の変更　・マニュアルフォーカス

● 絞り数値とシャッタースピードについて(p. 76)

Tv シャッタースピードを決めて撮る

シャッタースピードを選ぶと、被写体の明るさに応じて、カメラが適正露出になる絞り数値を自動的に設定します。
シャッタースピードを速くすると、動きの速い被写体の瞬間をとらえることができ、シャッタースピードを遅くすると流動感を表現したり、暗いところでもストロボを発光せずに撮影できます。

● 絞り数値が赤字で表示されたときは、露出アンダー(露出不足)または露出オーバー(露出過多)です。白字で表示されるまで、左/右ボタンでシャッタースピードを調節してください。
● シャッタースピードが遅くなると、CCD の特性により撮影した画像にノイズが増えますが、このカメラは、シャッタースピードが1.3 秒より遅くなると、このノイズを除去する処理を行い、高画質が得られます(ただし、次の撮影までにしばらく時間がかかります)。

- AF枠をアクティブ(任意選択)にしている場合、**SET**ボタンを押すたびに、シャッタースピードとAF枠の選択が切り換わります(p. 80)。
- シャッタースピードが遅くなると、手ブレしやすくなります。液晶モニターに[手ブレ警告アイコン](手ブレ警告)が表示されたら、三脚を使って撮影してください。
- ズームによって、絞り数値とシャッタースピードは次のように変わります。

	絞り数値	シャッタースピード(秒)
ワイド端	F2.8	～1/1000
	F3.2～4.0	～1/1250
	F4.5～8.0	～1/2000
テレ端	F4.9	～1/1000
	F5.6～7.1	～1/1250
	F8.0	～1/2000

- ストロボ発光時に有効なシャッタースピードは、最高で1/500秒です。1/500秒よりも高速のシャッタースピードを設定した場合は、自動的に1/500秒に再設定され、撮影されます。

シャッタースピードの表示

以下のシャッタースピードに設定できます。1/160は1/160秒を表します。また、0"3は0.3秒を、2"は2秒を表しています。

15" 13" 10" 8" 6" 5" 4" 3"2 2"5 2" 1"6 1"3 1" 0"8 0"6 0"5 0"4 0"3
1/4 1/5 1/6 1/8 1/10 1/13 1/15 1/20 1/25 1/30 1/40 1/50 1/60 1/80 1/100 1/125 1/160 1/200 1/250 1/320 1/400 1/500 1/640 1/800 1/1000 1/1250 1/1600 1/2000

Av 絞りを決めて撮る

絞りとは、レンズを通して入ってくる光の量を調整するものです。絞り数値を選ぶと、被写体の明るさに応じてカメラが適正露出になるシャッタースピードを自動的に設定します。
絞り数値を小さくする(絞りを開く)と、背景をぼかした美しいポートレートが撮影できます。
絞り数値を大きくする(絞りを閉じる)と、奥行きのある風景の手前から遠くまでが鮮明に写ります。数値を大きくするほど、鮮明に写る範囲が広くなります。

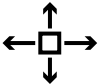
- シャッタースピードが赤字で表示されるときは、露出アンダー(露出不足)または露出オーバー(露出過度)です。
  白字で表示されるまで、左/右ボタンで絞り数値を調節してください。
- ズーム位置によっては選べない絞り数値があります(p. 76)。

- AF枠をアクティブ(任意選択)にしている場合、SETボタンを押すたびに、絞り数値とAF枠の選択が切り換わります(p. 80)。
- 絞り数値を大きくすると、シャッタースピードが遅くなり、手ブレしやすくなります。液晶モニターに(手ブレ警告)が表示されたら、三脚を使って撮影してください。
- ストロボ同調シャッタースピードは、1/60～1/500秒になります。したがって、あらかじめ絞り数値を設定していても、ストロボ同調速度に応じて絞り数値が自動的に変更されることがあります。

絞り数値の表示

- 表示された数値が大きくなるほど、レンズの絞り径は小さくなります。

F2.8	F3.2	F3.5	F4.0	F4.5	F4.9
F5.0	F5.6	F6.3	F7.1	F8.0	

M 自由にシャッタースピード / 絞りを決めて撮る

シャッタースピードや絞り数値を自分で決定し、撮影します。長時間露光などの、自分の好きな設定で撮影したいときに使います。

- シャッターボタンを半押しすると、液晶モニターに標準露出*からのずれが表示されます。このずれが± 2 段を超えると、この液晶モニターに、「－2」または「＋2」と赤字で表示されます。

  * 設定されている測光方式をもとに AE を行って、標準露出を算出します。

応用編

- このモードで変更できる設定(p. 159)
- 露出を変更したい場合は、**SET**ボタンでシャッタースピードか絞り数値を選び、左/右ボタンで数値を変更してください。
- AF枠をアクティブ(任意選択)にしている場合、**SET**ボタンを押すたびに、シャッタースピード、絞り数値または AF 枠の選択が切り換わります(p. 80)。
- 液晶モニターは、設定した絞り数値、シャッタースピードに応じた明るさで表示されます。速いシャッタースピードを設定した場合や、被写体が暗い場合、ストロボを (常時発光(赤目緩和))または (常時発光)にすると、常に明るく表示されます。
- 絞り数値とシャッタースピードの関係について(p. 76)

AF枠を選択する

モードダイヤル P Tv Av M SCN

オートフォーカス枠(AF枠)の選択方式を変更して撮影できます。液晶モニターをつけているときは、AF枠が表示されます(p. 26)。

	AiAF (オート選択)	撮影状況に応じて9つのAF枠の中からカメラが自動的にAF枠を選択してピントを合わせます。
	中央 (中央選択)	9つのAF枠のうち、中央のAF枠でピントを合わせます。狙った被写体に確実にピントを合わせるのに便利です。

	アクティブ（任意選択）	任意に選択したAF枠でピントを合わせます。 狙った被写体に確実にピントを合わせたり、構図を楽しむのに便利です。 モードダイヤルが**P**、**Tv**、**Av**、**M**のときだけ選択できます。

□は、液晶モニター上に表示される枠です。

画面例：AiAF選択時

画面例：中央選択時

1 [📷（撮影）] メニューから AF（AF フレーム）を選ぶ

- メニューの選択と設定のしかた（p. 64）

2 左/右ボタンで設定したいAF枠を選ぶ

3 MENUボタンを押す

- **MENU**ボタンの代わりに、シャッターボタンを押して、設定したAF枠で撮影することもできます。

[アクティブ]を選択したときの操作は、「任意のAF枠を設定する」（p. 80）をご覧ください。

応用編

任意のAF枠を選択する

モードダイヤル **P Tv Av M**

任意の位置にAF枠を手動で移動できます（アクティブフレームコントロール）。狙った被写体に確実にピントを合わせたり、構図を楽しむのに便利です。デジタルズームをお使いのときや液晶モニターを消してファインダーを使って撮影するときは、AF枠を任意の位置に設定しても、中央に固定されます。

4 **AFフレームを［アクティブ］に設定する（p. 78）**

5 **AF枠が緑色に変わるまで何回か ボタンを押す**

- 押す回数は撮影モードにより異なります。

6 **上/下/左/右ボタンで、設定したい位置にAF枠を移動する**

7 **ボタンを押す**

- ボタンを押さずにシャッターボタンを押して、設定したAF枠で撮影することもできます。
- ボタンを押し続けると、AF枠がもとの位置（中央）に戻ります。

- AF枠を任意の位置に設定して撮影するときは、液晶モニターをつけてください。
- デジタルズームをお使いのときは、AF枠は中央に固定されます。
- 測光方式が［スポット測光］のときは、AF枠をスポット測光枠と連動させることができます（p. 81）。
- AF枠の色については、p. 26をご覧ください。
- 撮影モードダイヤルを**Tv**、**Av**、**M**にしているときは、**SET** ボタンを押すと、以下のとおり設定できる項目が切り換わります。

Tv	シャッタースピード / AF枠
Av	絞り数値 / AF枠
M	シャッタースピード / 絞り数値 / AF枠

測光方式を切り換える

モードダイヤル **P Tv Av M**

	評価測光	逆光撮影を含む一般的な撮影に適しています。画面内を多分割して測光します。被写体の位置、明るさ、背景、順光、逆光など複雑な光の要素をカメラが判断し、主被写体を常に適正な露出にします。
	中央部重点平均測光	画面中央部の被写体に重点を置きながら、画面全体を平均的に測光します。
	スポット測光	「スポット測光枠」内を測光します。
	中央固定	スポット測光枠を液晶モニター中央部に固定します。
	AF枠連動	スポット測光枠をAF枠に連動させます。

1 FUNC.メニューから *(評価測光)を選ぶ

- メニューの選択と設定のしかた(p. 64)

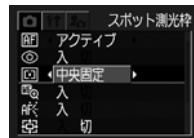
* 現在の設定が表示されます。

2 左/右ボタンで測光方式を選び、FUNC.ボタンを押す

[スポット測光]を選ぶ→手順3
[評価測光][中央部重点平均測光]を選ぶ→撮影する

3 [(撮影)]メニューから[スポット測光枠]を選ぶ

- メニューの選択と設定のしかた(p. 64)

応用編

4 **左/右ボタンで[中央固定]または[AF枠連動]を選び、MENUボタンを押す**

[中央固定]

スポット測光枠

- [中央固定]のときは液晶モニター中央にスポット測光枠が表示されます。
- [AF枠連動]のときは選択しているAF枠にスポット測光枠が表示されます。

[AF枠連動]はAF枠を[アクティブ](任意選択)に設定している場合にのみ、選択できます(p. 78)。

露出を補正する

モードダイヤル P Tv Av SCN

逆光や背景が明るい場所での撮影で、被写体が暗くなってしまったり、夜景の撮影でライトが明るすぎるようなときに、露出を補正します。

1 **FUNC.メニューから ±0*(露出補正)を選ぶ**

- メニューの選択と設定のしかた(p. 64)

* 現在の設定が表示されます。

2 **左/右ボタンで補正量を調整する**

- 補正量は、-2〜+2の範囲で1/3段ずつ変更できます。
- 液晶モニターがついている場合は、液晶モニターの表示画像で補正結果を確認できます。

- 設定したあとシャッターボタンを押せば、すぐに撮影できます。また、撮影後は、再びこの画面が表示され、設定を変更できます。

3 FUNC.ボタンを押す

- 露出補正を解除するときは、左/右ボタンで補正量を0に戻します。

ワンポイントアドバイス（p. 147）

色合いを調整する（ホワイトバランス）

モードダイヤル P Tv Av M

ホワイトバランスを設定すると、撮影時の光源に合った適正な色になります。

設定内容と光源の組み合わせは以下のとおりです。

AWB	**オート**	自動設定
	太陽光	晴天の屋外
	くもり	曇天や日陰、薄暮など
	電球	電球、電球色タイプ（3波長型）の蛍光灯
	蛍光灯	昼白色蛍光灯、白色蛍光灯、昼白色タイプ（3波長型）の蛍光灯
	蛍光灯H	昼光色蛍光灯、昼光色タイプ（3 波長型）の蛍光灯
	マニュアル	白い紙や布など白を基調としたものをカメラに記憶させ、最適な白データを取り込んでから撮影できます。

応用編

1 FUNC.メニューから AWB*(オート)を選ぶ

- メニューの選択と設定のしかた(p. 64)

* 現在の設定が表示されます。

2 左/右ボタンで設定したいホワイトバランスを選ぶ

- (マニュアル)について(右記参照)
- 液晶モニターがついている場合は、液晶モニターの表示画像で設定を確認できます。
- 設定したあとシャッターボタンを押せば、すぐに撮影できます。また、撮影後は、再びこの画面が表示され、設定を変更できます。

3 FUNC.ボタンを押す

色効果が(セピア)、(白黒)では、ホワイトバランスを設定できません(p. 87)。

マニュアルホワイトバランスを設定する

白い紙や布など、白の基準としたいものをカメラに記憶させ、その撮影状況下で最適なホワイトバランスを設定できます。特に次のような場合、AWB(オート)では、ホワイトバランスを調整できないことがありますので、(マニュアル)で白データを取り込んでから、撮影してください。

- 至近距離(マクロ)で撮影するとき
- 単一な色の被写体(空、海、森など)を撮影するとき
- 水銀灯などの特殊な光源で撮影するとき

1 FUNC.メニューからAWB*(オート)を選ぶ

- メニューの選択と設定のしかた(p. 64)

* 現在の設定が表示されます。

2 左/右ボタンで(マニュアル)を選ぶ

3 カメラを白い紙や布に向け、SET ボタンを押す

- 液晶モニターを使う場合は、中央の枠いっぱいに、またファインダーを使う場合は、画面いっぱいに白い紙や布が表示されるよう構図を決めます。
- 設定したあとシャッターボタンを押せば、すぐに撮影できます。また、撮影後は、再びこの画面が表示され、設定を変更できます。

4 FUNC.ボタンを押す

- マニュアルホワイトバランスを設定するときは、以下のような条件で撮影することをおすすめします。
  - **撮影モードをP にし、露出補正を±0にする**
    適正露出でない場合（真っ黒や真っ白）は白データを正しく取り込めないことがあります。
  - **ズームを最も望遠側（テレ端）の位置にする**
    デジタルズームは[切]にしてください。
  - **以外の撮影モードを設定する**
    では、白データの取り込みはできません。
  - **ストロボを（常時発光）または（発光禁止）にしておく**
    撮影時のストロボ設定と同じ条件でホワイトバランスを設定してください。条件が合っていない場合、最適なホワイトバランスを設定できないことがあります。
    ストロボを（赤目緩和オート）/（オート）に設定していると、マニュアルホワイトバランスで白データを取り込むときにストロボが発光することがあります。このときは、撮影時もストロボを発光させてください。
  - **ISO感度を撮影時と同じ条件に設定する**
- 設定したマニュアルホワイトバランスは、カメラの設定を初期設定に戻しても解除されません（p. 73）。

応用編

ISO感度を変更する

モードダイヤル **P Tv Av M**

ISO 感度を上げると、光量が少ない場所でも画像を明るめにして撮影できます。暗いところで手ブレを抑えたいとき、ストロボをオフにして撮影したいとき、シャッタースピードを速くしたいときに便利です。

1 FUNC.メニューから*(ISO感度)を選ぶ

- メニューの選択と設定のしかた(p. 64)

* 現在の設定が表示されます。

2 左/右ボタンで設定したい感度を選ぶ

- 設定したあとシャッターボタンを押せば、すぐに撮影できます。また、撮影後は、再びこの画面が表示され、設定を変更できます。

3 FUNC.ボタンを押す

- ISO感度を上げすぎると、画像にノイズが増えます。きれいに撮りたいときは、なるべく低い感度を選んでください。
- AUTOを選択すると、最適な画質になる感度に設定されます。
  また、被写体を照らすストロボ発光量が十分でない場合は、自動的に感度が上がります。

- 室内など少し暗いところで撮影するときは、**SCN** モードの(パーティー / 室内(p. 50))で簡単に撮影できます。
- ワンポイントアドバイス(p. 148)

色効果を切り換える

モードダイヤル P Tv Av M

色効果を切り換えると、画像の印象を変えられます。

	効果切	通常設定
	くっきりカラー	コントラストと色の濃さを強調し、くっきりした色合いにする
	すっきりカラー	コントラストと色の濃さを抑え、すっきりとした色合いにする
	ソフト	輪郭の強調を抑える
	セピア	セピア色にする
	白黒	白黒にする

1 FUNC.メニューから*（効果切）を選ぶ

- メニューの選択と設定のしかた（p. 64）

* 現在の設定が表示されます。

2 左/右ボタンで設定したい色効果を選ぶ

- 液晶モニターがついているときは、液晶モニターの表示画像で補正結果を確認できます。
- 設定したあとシャッターボタンを押せば、すぐに撮影できます。また、撮影後は、再びこの画面が表示され、設定を変更できます。

3 FUNC.ボタンを押す

ストロボ発光量を補正する

モードダイヤル M

撮影モードダイヤルが**M**のときは、ストロボの発光量を3段階から選択して撮影できます。

1 FUNC.メニューから(ストロボ発光量)を選ぶ

- メニューの選択と設定のしかた(p. 64)

2 左/右ボタンで発光量を調整する

- 設定したあとシャッターボタンを押せば、すぐに撮影できます。また、撮影後は、再びこの画面が表示され、設定を変更できます。

3 FUNC.ボタンを押す

ストロボの発光量を抑えると、ストロボ撮影による影が出にくくなりますが、広い範囲の撮影では光量不足で暗く写ってしまいます。被写体までの距離などに応じて発光量を補正してください。

ピントが合いにくい被写体を撮る

モードダイヤル AUTO P Tv Av M SCN

次のような被写体は、ピントが合わないことがあります。

- コントラストが極端に低い被写体
- 近いものと遠いものが混在する被写体
- 画像中央部が極端に明るい被写体
- 高速で移動する被写体
- ガラス越しの被写体:できるだけガラスに近寄り、反射による写り込みのない状態で撮影してください。
- 横じまの入った被写体

これらの被写体を撮影する場合は、その被写体とほぼ同じ距離にある別の被写体でフォーカスロックで撮影するか、マニュアルフォーカスで(手動でピントを合わせて)撮影してください。

フォーカスロックで撮る

1 ピントを合わせたい被写体と同じ撮影距離にある異なる被写体を、AF枠に収める

2 シャッターボタンを半押しし、ピントを合わせる

- このときAEもロックされます。撮影したい被写体と、その被写体と同じ距離にあるフォーカスロックに用いた被写体との輝度の差が大きいと、適正露出が得られない場合があります。この場合は、AFロックで撮影してください。

3 そのままカメラの向きを変えて構図を決め、シャッターボタンを全押しして撮影する

AFロックで撮る

1 シャッターボタンを半押しし、ピントを合わせ、そのままMFボタンを押す

- 液晶モニターに MF が表示されます。
- シャッターボタン、MF ボタンを放しても、フォーカスは固定されます。
- 再度 MF ボタンを押すと、AF ロックは解除されます。

2 カメラの向きを変えて構図を決め、シャッターボタンを全押しして撮影する

- AUTO、□ のときはAFロックはできません。

- フォーカスロックで撮るときは、あらかじめ[□(撮影)]メニューで AF を[中央]に設定しておくと、中央の AF 枠内の被写体をフォーカスロックできます。
- AF ロックで撮る方法は、シャッターボタンを放して構図を決められるので便利です。また、撮影後も AF ロックされたままなので、同じピントで次の撮影ができます。

マニュアルフォーカスで撮る

手動でピントを合わせて撮影します。

1 MFボタンを何回か押して、MF を表示する

MF インジケーター

- MF インジケーターが表示されます。
- [□(撮影)]メニューの[MF拡大表示]を[入]にしているときは、AF 枠を中心に画像が拡大表示*されます。

応用編

* (スティッチアシスト)、(動画)、デジタルズームを使用しているとき、テレビに画像を表示しているときは拡大表示されません。

* 拡大表示しない設定にもできます(p. 67)。

- MF インジケーターはピント位置の目安です。表示される数値を目安にしてください。
- **Tv**、**Av**、**M** のときは、**SET**ボタンを押すたびに、シャッタースピード、絞り数値、**MF**の選択を切り換えられます(選択できる項目の左に▶(緑色)が表示されます)。

2 左/右ボタンでピントを合わせて撮影する

- 液晶モニター内の被写体がはっきり見えるまで、左/右ボタンでピントを合わせてください。
- 再度**MF** ボタンを押すと、マニュアルフォーカスは解除されます。

- マニュアルフォーカス時は、マクロモードの撮影距離[5cm(ワイド端) / 25cm(テレ端)〜45cm]もフォーカスできます。この場合、MFインジケーターの単位は細かくなります。
- MFインジケーターの表示単位を変更できます(p. 70)。

Cカスタム登録する

モードダイヤル **P Tv Av M C**

よく使う撮影モードや撮影時のさまざまな設定を、あらかじめ**C**（カスタム）に登録しておくことができます。必要なときに撮影モードダイヤルを**C**に合わせるだけで、事前に登録した設定内容で撮影できます。他の撮影モードに切り換えたり、電源を切ると解除されてしまう設定（連続撮影、セルフタイマーなど）も保持されます。

1 撮影モードダイヤルを**P**、**Tv**、**Av**、**M**、**C**のいずれかにする

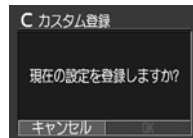
- **C**に登録した設定の一部（撮影モード以外）を変更するときは、**C**を選びます。

2 登録したい内容を設定する

Cに登録できる機能

- 撮影モード（**P**、**Tv**、**Av**、**M**）
- **P**、**Tv**、**Av**、**M**で設定可能な項目（p. 159）
- 撮影メニューの設定内容
- ズーム位置
- マニュアルフォーカス位置

3 [（撮影）]メニューから**C**（カスタム登録）を選び、SETボタンを押す

- メニューの選択と設定のしかた（p. 64）

4 [OK]を選び、SETボタンを押す

5 MENUボタンを押す

- 設定内容は、他の撮影モードには反映されません。
- 登録内容をリセットできます（p. 73）。

応用編

縦横自動回転を設定する

このカメラにはSIセンサーが装備されており、縦位置で撮影した画像は、再生時に正しい縦位置に回転して表示されます。この機能を入 / 切できます。

1 [(設定)] メニューから (縦横自動回転)を選ぶ

- メニューの選択と設定のしかた(p. 64)

2 [入]を選び、MENUボタンを押す

- [入]に設定すると、液晶モニター表示(情報表示あり)のとき、画面右上にカメラの向きを示すアイコンが表示されます。

	通常
	右が下
	左が下

- カメラを真上や真下に向けて撮影すると、正しく機能しない場合があります。アイコン( )を確認し、正しく天地を判断しない場合は、[切]にしてお使いください。
- 縦横自動回転の設定が[入]のときに縦位置で撮影した画像をパソコンに取り込む場合、取り込みに使用するソフトウェアによっては、回転結果が反映されないことがあります。

- このカメラは、SIセンサーにより、縦位置で構えて撮影する場合、上側を「天」、下側を「地」と判断し、縦位置に最適な露出、ホワイトバランス制御を行います。この機能は、縦横自動回転の入 / 切に関係なく有効です。
- カメラの縦・横の向きを変えると、その向きを検出する機構により、音がすることがありますが、故障ではありません。

回転して表示する

時計方向に90度、270度に回転して表示します。

元画像

90度

270度

1 [▶(再生)]メニューから回(回転)を選び、SETボタンを押す

- メニューの選択と設定のしかた(p. 64)

2 左/右ボタンで回転したい画像を選び、SETボタンを押す

- **SET**ボタンを押すたびに、90度→270度→元の画像が表示されます。

3 MENUボタンを押す

- メニュー画面表示に戻ります。もう一度**MENU**ボタンを押すと、メニュー画面が消えます。

- 動画は回転表示できません。
- カメラで回転した画像をパソコンに取り込む場合、取り込みに使用するソフトウェアによっては回転結果が反映されないことがあります。

- 画像を回転したあとで、拡大することもできます(p. 56)。
- 縦横自動回転の設定(p. 92)が[入]のとき、縦位置で撮影した画像をカメラの液晶モニターに表示すると、画像は自動的に縦位置に回転して表示されます。

音声メモをつける

再生中(シングル再生、インデックス再生、拡大再生)の画像に最長60秒の音声メモをつけることができます。音声データはWAVE形式で保存されます。

1 [▶(再生)]メニューから🎙(音声メモ)を選び、SETボタンを押す

- メニューの選択と設定のしかた(p. 64)
- 🎙が表示されます。

2 左/右ボタンで音声メモをつけたい画像を選び、SETボタンを押す

- 音声メモパネルが表示されます。

音声メモパネル

3 左/右ボタンで●(録音)を選び、SETボタンを押す

- 録音が始まり、録音時間が表示されます。カメラのマイクに向かって音声を発してください。
- 停止するときは **SET** ボタンを押します。引き続き録音をするときは、もう一度 **SET** ボタンを押します。
- 1 画像につき、合計が 60 秒に達するまで何度でも録音を追加することができます。

音声メモの再生

- 手順***3***で、▶ (再生)を選びます。音声メモのついた画像には ♪ マークが表示されています。
- 停止するときは**SET**ボタンを押します。引き続き再生するときは、もう一度**SET**ボタンを押します。上/下ボタンで、音量を調節できます。

音声メモの消去

- 手順***3***で、🗑(消去)を選びます。

音声メモ設定の終了

- **MENU**ボタンを押します。

- 動画には音声メモをつけられません。
- 画像に互換性のない音声ファイルが添付されている場合、録音、再生はできません。録音、再生をしようとすると、「互換性のないWAVEです」のメッセージが表示されます。なお、互換性のない音声データはこのカメラで削除できます。
- プロテクトされている画像の音声メモは消去できません(p. 96)。

- 設定メニューでも、音声メモの音量を調節できます(p. 69)。
- 設定メニューの[消音]を[入]にすると(p. 69)、音量は0になりますが、上/下ボタンでの音量調節は可能です。

画像を自動再生する(オートプレイ)

CFカード内のすべての画像を自動で再生します(オートプレイ)。再生間隔は、約3秒です。

1 [▶(再生)]メニューから⧉(オートプレイ)を選び、SETボタンを押す

- メニューの選択と設定のしかた(p. 64)
- メニューから選ぶと、オートプレイが開始されます。
- オートプレイ中も、シングル再生中と同様に左/右ボタンで画像を送ることができます。

オートプレイの一時停止 / 再開

- オートプレイ中に **SET** ボタンを押すと、オートプレイが停止されます。もう一度 **SET** ボタンを押すと、オートプレイが再開されます。

オートプレイの終了

- オートプレイ中に、**MENU**ボタンを押すと、オートプレイが終了します。

- 画像によっては、再生間隔が異なることがあります。
- 動画は記録した時間で再生されます。
- オートプレイ中は、節電機能は働きません(p. 95)。

画像をプロテクト(保護)する

大切な画像を誤って消去しないように、プロテクトを設定できます。

1 [▶(再生)]メニューから○━(プロテクト)を選び、SETボタンを押す

- メニューの選択と設定のしかた(p. 64)

2 左/右ボタンでプロテクトしたい画像を選び、SETボタンを押す

プロテクトマーク

- プロテクトを設定した画像には、○━が表示されます。
- プロテクトを設定した画像で**SET**ボタンを押すと、プロテクトが解除されます。
- シングル再生とインデックス再生を切り換えても指定できます(p. 56、57)。

3 MENUボタンを押す

- メニュー画面に戻ります。もう一度**MENU**ボタンを押すと、メニュー画面が消えます。

CFカードを初期化(p. 19)すると、プロテクトした画像も消去されます。CF カードを初期化するときはCFカード上の記録内容を十分に確認してから行ってください。

プリントについて

このカメラで撮影した画像は、次の方法でプリントできます。

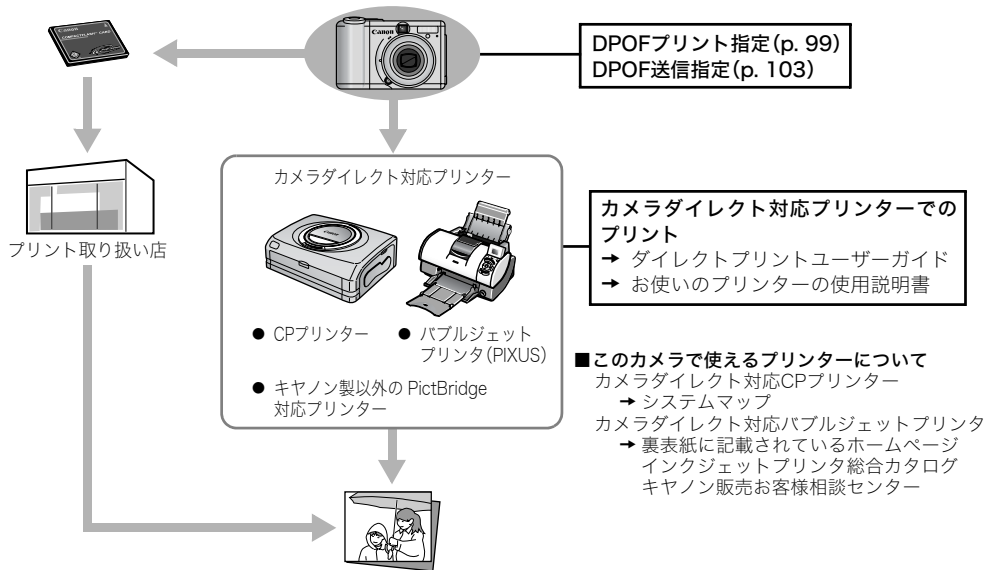
- カメラとカメラダイレクト対応プリンター*1をケーブルで直接つなぎ、カメラの🖨〜ボタンを押すだけで簡単にプリントできます。
- プリントする画像や枚数などをあらかじめカメラで指定（DPOF*2プリント指定）しておけば、CFカードをプリント取り扱い店にお持ちいただくだけで、指定どおりにプリントできます。

*1 このカメラは標準規格「PictBridge（ピクトブリッジ）」に対応していますので、キヤノン製以外のPictBridge対応プリンターでもプリントできます。
*2 Digital Print Order Format の略

本書では DPOF のプリント指定を説明しています。プリント方法は、別冊のダイレクトプリントユーザーガイドをご覧ください。また、お使いのプリンターの使用説明書もご覧ください。

■このカメラで使えるプリンターについて

カメラダイレクト対応CPプリンター
➜ システムマップ

カメラダイレクト対応バブルジェットプリンタ
➜ 裏表紙に記載されているホームページ
インクジェットプリンタ総合カタログ
キヤノン販売お客様相談センター

DPOFのプリント指定

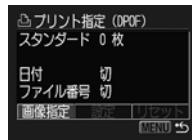
CFカードに記録されている画像の中から、プリントする画像や枚数をあらかじめカメラで指定できます。カメラダイレクト対応プリンターで一括してプリントするときや、プリント取り扱い店に注文するときに大変便利です。
プリンターからプリントする方法は、ダイレクトプリントユーザーガイドをご覧ください。

- DPOF対応の他のカメラでプリント指定されたCFカードの場合、⚠が表示されることがあります。このカメラでそれらのプリント指定を変更すると、設定済みのプリント指定は、すべて書き換えられます。
- プリンターまたはプリント取り扱い店によっては、指定内容が反映されないことがあります。
- 動画はプリント指定できません。

プリントする画像を選ぶ

1 [▶(再生)]メニューから🖨(プリント指定)を選び、SETボタンを押す

- メニューの選択と設定のしかた(p. 64)

2 左 / 右ボタンで[画像指定]を選び、SET ボタンを押す

3 プリントする画像を選ぶ

1画像ずつ指定するとき

- プリントタイプ(p. 101)が[スタンダード] / [両方]の場合、左 / 右ボタンで画像を選びます。上 / 下ボタンで、プリント枚数が指定できます(最大99枚まで)。

プリント枚数

活用編

- プリントタイプ(p. 101)が[インデックス]の場合、左/右ボタンで画像を選び、上/下ボタンで、指定、指定解除を行います。指定したときは、チェックマークが表示されます。
- ズームレバーを側に押してインデックス再生(3画像表示)に切り換えても、同じ方法で指定できます。

CFカード内のすべての画像を指定するとき

- ズームレバーを側に押してインデックス再生 (3画像表示)に切り換えます。
- **SET**ボタンを押したあとで、上/下ボタンで[全画像指定]を選び、再度**SET**ボタンを押すと、すべての画像に対して1枚ずつプリント指定されます。
- プリントタイプが[スタンダード] / [両方]の場合、各画像のプリント枚数を変更できます。[インデックス]の場合は、プリント指定の解除ができます。変更方法は、手順3のはじめからもう一度ご覧ください。
- [全指定解除]を選ぶと、すべての指定を解除できます。

4 MENUボタンを押す

- プリント指定が終了し、プリント指定メニューに戻ります。

- 撮影日時の古い画像から順にプリントされます。
- 最大998画像まで設定できます。
- [プリントタイプ]が[両方]の場合、プリント枚数は設定できますが、[インデックス]の場合は設定できません。[インデックス]では1枚のみプリントされます。
- 付属のソフトウェア(ZoomBrowser EXまたは ImageBrowser)を使ってプリント指定できます。ただし、日付を写し込んだ画像をプリントする場合、DPOFのプリント指定で日付を入れる設定をしないでください。日付が重複してプリントされます。

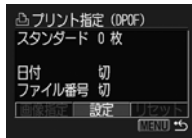
プリントスタイルを設定する

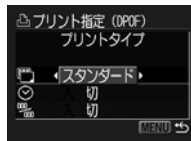
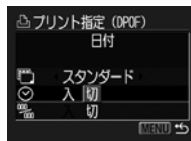
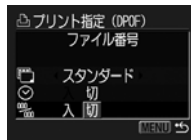
次の内容を設定できます。

プリントタイプ	スタンダード	ペーパー1枚に1画像をプリントします。
	インデックス	画像を縮小してインデックス形式でプリントします。
	、両方	スタンダードとインデックスの両方をプリントします。
日付		日付を入れてプリントします。
ファイル番号		ファイル番号を入れてプリントします。

1 [(再生)]メニューから(プリント指定)を選び、SETボタンを押す

● メニューの選択と設定のしかた(p. 64)

2 左/右ボタンで[設定]を選び、SETボタンを押す

3 上/下ボタンで(プリントタイプ)、(日付)、(ファイル番号)のいずれかを選ぶ

4 左/右ボタンで設定を選ぶ

プリントタイプ
[スタンダード]、[インデックス]、[両方]のいずれかを選びます。

日付
[入]または[切]を選びます。

ファイル番号
[入]または[切]を選びます。

5 MENUボタンを押す

- 設定が終了し、プリント指定メニューに戻ります。

- [プリントタイプ]が[インデックス]の場合、[日付]と[ファイル番号]を同時に[入]に設定することはできません。
- [プリントタイプ]を[両方]または[スタンダード]に設定している場合、[日付]と[ファイル番号]を同時に[入]に設定できます。ただし、CPプリンター接続時は、スタンダードプリントには[日付]のみ、インデックスプリントには、[ファイル番号]のみプリントされます。

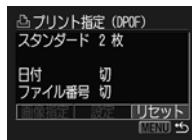
日付は、[日付 / 時刻]で設定した日付スタイルでプリントされます(p. 21)。

プリントの設定をリセットする

画像のプリント指定をすべて解除し、プリントタイプを[スタンダード]、日付を[切]、ファイル番号を[切]に戻します。

1 [▶(再生)]メニューから🖨(プリント指定)を選び、SETボタンを押す

- メニューの選択と設定のしかた(p. 64)

2 左/右ボタンで[リセット]を選び、SETボタンを押す

3 左/右ボタンで[OK]を選び、SETボタンを押す

- リセットを取り消すときは、[キャンセル]を選び、**SET**ボタンを押します。

画像の送信設定（DPOF送信指定）

パソコンに取り込む画像を、あらかじめカメラ側で指定できます。パソコンへの送信方法は、ソフトウェアクイックガイドをご覧ください。ただし、Mac OS Xをお使いの場合、送信設定した画像をパソコンに一括で送信できません。
なお、この指定は、DPOF（Digital Print Order Format）に準拠しています。

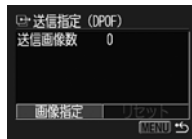
DPOF対応の他のカメラで送信指定されたCFカードの場合、⚠が表示されることがあります。このカメラでそれらの送信指定を変更すると、設定済みの送信指定は、すべて書き換えられます。

送信する画像を選ぶ

1 [▶（再生）]メニューから（送信指定）を選び、SETボタンを押す

- メニューの選択と設定のしかた（p. 64）

2 左/右ボタンで[画像指定]を選び、SETボタンを押す

- [リセット]を選ぶと、送信指定された画像をすべて解除します。

3 送信する画像を選ぶ

1画像ずつ指定するとき

- 左/右ボタンで画像を選び、上/下ボタンで、指定、指定解除を設定します。指定したときは、チェックマークが表示されます。
- ズームレバーを側に押して、インデックス再生（3画像表示）に切り換えても、同じ方法で指定できます。

活用編

CFカード内のすべての画像を指定するとき

- ズームレバーを▪側に押して、インデックス再生(3画像表示)に切り換えます。
- **SET**ボタンを押した後、上/下ボタンで[全画像指定]を選び、再度**SET**ボタンを押すと、すべての画像が指定されます([全指定解除]を選ぶと、すべての指定を解除できます)。
- [全画像指定]または[全指定解除]を行ったあと、左/右ボタンで画像を選び、上/下ボタンで設定変更できます。

4 MENUボタンを押す

- 送信指定が終了し、送信指定メニューに戻ります。

- 撮影日時の古い画像から順に送信されます。
- 最大998画像まで指定できます。

パソコンへの画像の取り込み

カメラで撮影した画像をパソコンに取り込む方法は次のとおりです。お使いの OS によっては利用できない方法があります。

●カメラとパソコンを接続して画像を取り込む

Windows 98 | Windows Me | Windows 2000 | Windows XP | Mac OS 9 | Mac OS X

- ソフトウェアをインストールし、パソコンの操作で画像を取り込む

→「カメラとパソコンを接続する(p. 105)」、別冊のソフトウェアクイックガイド

Windows 98 | Windows Me | Windows 2000 | Windows XP

- ソフトウェアをインストールし、カメラのボタン操作で画像を取り込む(初回のみパソコンの設定が必要)

→「カメラとパソコンを接続する」(p. 105)、「ダイレクト転送で画像を取り込む」(p. 109)

- ソフトウェアをインストールせずに、パソコンの操作で画像を取り込む

→「カメラとパソコンを接続する」(下記)(ソフトウェアのインストールは必要ありません)、「ソフトウェアをインストールせずに、カメラとパソコンを接続して画像を取り込む」(p. 110)

●CFカードから直接画像を取り込む

カードアダプターやカードリーダーを使って画像を取り込みます。

→「CFカードから直接画像を取り込む」(p. 111)

カメラとパソコンを接続する

パソコンに必要なシステム構成

●Windows

OS	Windows 98（Second Editionを含む） Windows Me Windows 2000 Windows XP（Home Edition、Professional）
機種	左記OSがプリインストールされていて、USBポートが標準装備されていること
CPU	Windows 98 / Windows Me / Windows 2000： Pentium 150MHz以上 Windows XP：Pentium 300MHz以上 上記すべてのOS：Pentium 500MHz以上推奨（動画編集時）
RAM	Windows 98 / Windows Me / Windows 2000： 64MB以上 Windows XP：128MB以上 上記すべてのOS：128MB以上推奨（動画編集時）
インターフェース	USB
ハードディスク空き容量	●Canon Utilities ZoomBrowser EX　：200MB以上 （印刷ソフトウェアPhotoRecord含む） PhotoStitch　：40MB以上 ●Canon Camera TWAIN Driver ：25MB以上 ●Canon Camera WIA Driver ：25MB以上
ディスプレイ	800 x 600ドット High Color（16bit）以上必要 1024 x 768ドット以上推奨

活用編

●Macintosh

OS	Mac OS 9.0～9.2、Mac OS X （v10.1/v10.2/v10.3）
機種	上記OSがプリインストールされていて、USBポートが標準装備されていること
CPU	PowerPC
RAM	Mac OS 9.0～9.2：64MB以上のアプリケーション用メモリー Mac OS X （v10.1/v10.2/v10.3）：128MB以上
インターフェース	USB
ハードディスク空き容量	●Canon Utilities ImageBrowser ：120MB以上 PhotoStitch ：30MB以上
ディスプレイ	800 x 600ドット 32,000色 以上必要 1024 x 768ドット以上推奨

重要

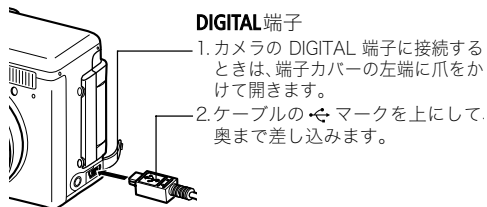
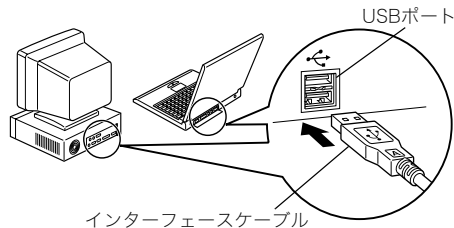
カメラとパソコンを接続する前に、必ず付属のCanon Digital Camera Solution Diskに収められているドライバとソフトウェアをインストールしてください。

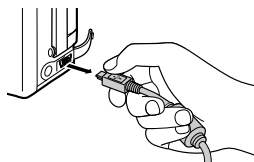
ドライバとソフトウェアをインストールする前にカメラとパソコンを接続すると、カメラが正しく認識されません。このような場合には、ソフトウェアクイックガイドの「困ったときには」をご覧ください。

- インターフェースケーブルを接続するときに、カメラやパソコンの電源を切る必要はありません。
- パソコンの USB ポートの位置は、お使いのパソコンの取扱説明書で確認してください。
- カメラをパソコンに接続する場合、フル充電したバッテリーまたはACアダプターキットACK600（別売）をお使いになることをおすすめします（p. 129、131）。
- USB2.0対応ボードとの接続は、すべての動作を保証するものではありません。

1 Canon Digital Camera Solution Disk から、ドライバとソフトウェアをインストールする（初回時のみ）

- インストールの手順は、ソフトウェアクイックガイドをご覧ください。

2 付属のインターフェースケーブルで、パソコンのUSBポートとカメラのDIGITAL端子を接続する

DIGITAL端子

1. カメラの DIGITAL 端子に接続するときは、端子カバーの左端に爪をかけて開きます。
2. ケーブルの ⭠ マークを上にして、奥まで差し込みます。

カメラの**DIGITAL**端子からケーブルを取り外すときは、必ず、コネクターの側面を持って取り外してください。

3 カメラのモードスイッチを ▶ 側にスライドする

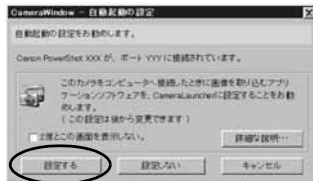
4 電源ランプが緑色に点灯するまで、電源スイッチを押す

Windowsをお使いの場合
→ 引き続き、以下の手順5、6を行ってください。

Macintoshをお使いの場合
→ ソフトウェアクイックガイドをご覧になり、画像の取り込みを行ってください。

5 パソコンに表示されるイベントダイアログで、[Canon CameraWindow]を選んで[OK]をクリックする（初回操作時のみ）

イベントダイアログが表示されない場合は、スタートメニューから、[プログラム]または[すべてのプログラム]＞[Canon Utilities]＞[CameraWindow]＞[CameraWindow-自動起動の設定]をクリックします。

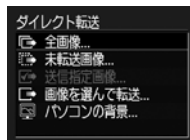
6 [CameraWindow-自動起動の設定]ウィンドウで、[設定する] をクリックする（初回操作時のみ）

● [画像のダウンロード]ウィンドウが表示されます。

- ソフトウェアを使ってパソコンの操作で画像を取り込む場合
  → ソフトウェアクイックガイドをご覧ください。
- カメラの操作で画像を取り込む(ダイレクト転送)場合
  → 「ダイレクト転送で画像を取り込む」(下記参照)をご覧ください。

ダイレクト転送で画像を取り込む

カメラの操作で画像を取り込めます。
初めてダイレクト転送で画像を取り込むときは、付属のソフトウェアを最初にインストールし、パソコンの設定をしておいてください(p. 106)。

	全画像	すべての画像をパソコンに取り込み、保存します。
	未転送画像	まだ取り込んでない画像だけをパソコンに取り込み、保存します。
	送信指定画像	送信指定(p. 103)した画像だけをパソコンに取り込み、保存します。
	画像を選んで転送	画像を見ながら1画像ずつパソコンに取り込み、保存します。
	パソコンの背景	画像を見ながらパソコンのデスクトップの背景にしたい画像を取り込みます。取り込んだ画像は、パソコンのデスクトップに背景として表示されます。

1 カメラの液晶モニターにダイレクト転送画面が表示されていることを確認する

ダイレクト転送画面

- ボタンが青色に点灯します。
- ダイレクト転送画面が表示されない場合は、**MENU**ボタンを押してください。

[全画像][未転送画像][送信指定画像]のとき

2 上/下ボタンで 、、 のいずれかを選び、ボタンを押す

- 取り込みを中止するときは、**SET**ボタンを押してキャンセルします。
- 画像の取り込みが終了すると、ダイレクト転送画面に戻ります。

活用編

[画像を選んで転送][パソコンの背景]のとき

2 **上/下ボタンで、のいずれかを選び、ボタン(またはSETボタン)を押す**

3 **左/右ボタンで取り込みたい画像を選び、ボタン(またはSETボタン)を押す**

- 画像が取り込まれます。
- 取り込み中はボタンが青色に点滅します。

4 **MENUボタンを押す**

- ダイレクト転送画面に戻ります。

[パソコンの背景]の場合、JPEG形式の画像のみが取り込めます。取り込んだ後は、BMP形式に自動変換されます。

- [全画像]、[未転送画像]、[送信指定画像]での画像の取り込み中は、ボタンは青色に点滅しません。
- ボタンで選択した項目はカメラの電源を切っても記憶されます。次回、ダイレクト転送画面を表示したときは、前回設定した項目が選択されます。[画像を選んで転送]と[パソコンの背景]を選択していたときは、直ちに画像を選択する画面が表示されます。

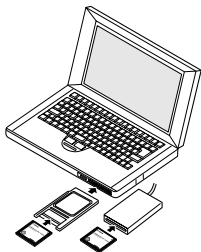
ソフトウェアをインストールせずに、カメラとパソコンを接続して画像を取り込む

Windows XPまたはMac OS X (v10.1/v10.2/v10.3)をお使いの場合、OSに標準で組み込まれているソフトウェアを使って、画像を取り込めます。
Canon Digital Camera Solution Diskからソフトウェアをインストールする必要がなく、USBケーブルでカメラとパソコンを接続するだけで、会社やお友達のパソコンに画像を取り込めますので、便利です。
ただし、この方法で画像を取り込む場合、いくつかの制限事項があります。詳細は、付属の「Windows® XP、Mac OS Xをお使いの方へ」でご確認ください。

1 付属のインターフェースケーブルで、パソコンの USB ポートとカメラの **DIGITAL** 端子を接続する（p. 107の手順2～4をご覧ください。）

2 パソコンに表示されるメッセージにしたがって画像を取り込む

CFカードから直接画像を取り込む

1 カメラからCFカードを取り出し、パソコンに接続されたCFカードリーダーに入れる

- PC カードリーダーまたは PC カードスロットをお使いの場合は、まず CF カードを PC カードアダプター（別売）に差し込んでから、入れてください。
- PC カードアダプターや PC カードリーダーへの接続のしかたなどは、各々の取扱説明書でご確認ください。

2 CFカードを接続したドライブをダブルクリックして開く

- OSによっては、自動的に画像が表示されます。

3 撮影した画像をハードディスクの任意の場所にコピーする

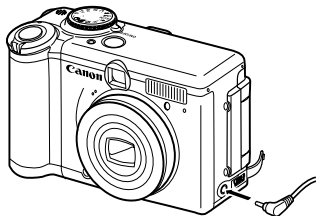
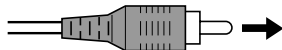
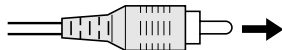
- 撮影した画像は、CFカード内の[DCIM]フォルダの中の[xxxCANON]フォルダ（xxxは100～998の数字が入ります）にあります（p. 114）。

テレビを使って撮影 / 再生する

付属のAVケーブルAVC-DC300を使用すると、テレビに画像を表示して撮影や再生ができます。

- ビデオ出力形式は、日本国内で採用しているNTSC方式に設定されています。

1 カメラとテレビの電源を切る(p. 31)

2 カメラの端子にAVケーブルを接続する

3 テレビの映像入力端子と音声入力端子にAVケーブルを接続する

4 テレビの電源を入れ、入力切り換えをビデオ入力にする

5 カメラの電源を入れる(p. 31)

- 画像がテレビに表示されます。通常の撮影や再生ができます。
- 撮影時、テレビに画像が表示されていないときは、**DISP.**ボタンを押します。

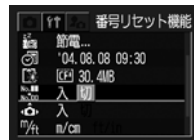
- テレビ表示中は、液晶モニターに画像は表示されません。
- 海外で使うとき(p. 135)
- AVケーブルをステレオ対応のテレビに接続する場合は、音声入力端子の左右どちらかに接続してください。詳しくは、お使いのテレビの取扱説明書でご確認ください。
- ⧉では使用できません。

ファイル番号をリセットする

撮影した画像には、自動的にファイル番号が付きます。そのファイル番号の設定方法を選択します。

入	新しいCFカードを入れるたびに、ファイル番号が初期値(100-0001)に戻ります。記録済みのCFカードを入れたときは、続きの番号になります。
切	最後に撮影した画像のファイル番号が記憶され、新しいCFカードを入れても続きのファイル番号になります。

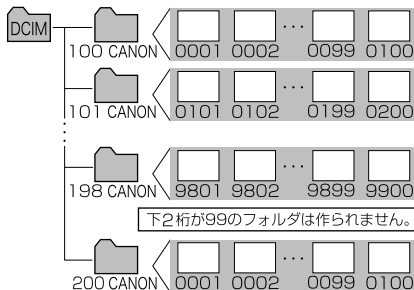
1 [(設定)]メニューから(番号リセット機能)を選ぶ

- メニューの選択と設定のしかた(p. 64)

2 左/右ボタンで[入]または[切]を選ぶ

3 MENUボタンを押す

活用編

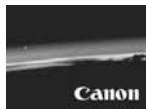
番号リセット機能を[切]にして撮影すると、ファイル番号が重複しないため、パソコンでまとめて管理するような場合に便利です。

ファイル番号およびフォルダ番号について
撮影した画像には、0001 ～ 9900 までのファイル番号が割り振られ、各フォルダには、100～998までの番号が割り振られます（下2桁が99のフォルダは作られません）。

ファイル数について
ひとつのフォルダに100画像ずつ保存されます。ただし、連続撮影やスティッチアシストモードで撮影した画像は、必ずひとつのフォルダに保存されるため、フォルダ内に101画像以上保存されることがあります。また、他のカメラで撮影したり、パソコンから画像をコピーすると、ひとつのフォルダ内に 101 画像以上を保存できますが、2001 以上の画像が保存されているフォルダ内の画像は、このカメラで再生できませんのでご注意ください。

カメラを自分好みにする(マイカメラ機能)

カメラの起動画面や起動音、操作音、セルフタイマー音、シャッター音を「マイカメラコンテンツ」と呼びます。このカメラでは起動画面や音をそれぞれ3種類から選べます。

例：起動画面

[1]

[2]

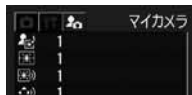
[3]

初期設定時は、マイカメラコンテンツの[2]にはSF関連、[3]には動物関連のコンテンツが入っています。

マイカメラコンテンツを変更する

1 MENUボタンを押す

- [(撮影)]メニューまたは[(再生)]メニューが表示されます。

2 右ボタンを2回押して[(マイカメラ)]メニューを選び、上/下ボタンでメニュー項目を選ぶ

3 左/右ボタンで設定したいコンテンツを選ぶ

4 MENUボタンを押す

- メニューが終了し、設定が有効になります。
- 撮影モードのときは、シャッターボタンを半押ししてもメニューを終了できます。

- すべて同じコンテンツに設定したいときは、手順**2**で[セット]を選びます。
- マイカメラメニューでコンテンツを選択していても、[(設定)]メニューの[消音]が[入]になっているときは、警告音以外の音は鳴りません。起動画面は表示されます(p. 69)。

活用編

マイカメラコンテンツを登録する

CF カードに記録してある画像や新たに録音した音声を、マイカメラコンテンツとして、その場ですぐにカメラに登録できます。付属のソフトウェアを使うと、パソコンにある画像や音声、CANON iMAGE GATEWAYからダウンロードしたコンテンツをカメラに登録することもできます。
コンテンツを登録できる項目は、次のとおりです。

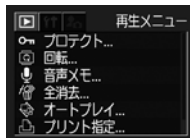
- 起動画面
- 起動音
- 操作音
- セルフタイマー音
- シャッター音

マイカメラコンテンツを初期設定に戻すには、パソコンが必要です。付属のソフトウェア(ZoomBrowser EX/ImageBrowser)を使い、初期設定のコンテンツをカメラに登録してください。

CFカード内の画像や音声を登録する

1 モードスイッチを[▶]側にスライドする

- 再生モードになります。

2 MENUボタンを押す

- [[▶](再生)]メニューが表示されます。

3 右ボタンで[(マイカメラ)]メニューを選んだあと、上/下ボタンで登録したいメニュー項目を選ぶ

4 左/右ボタンで[icon]または[icon]を選ぶ

- DISP [icon] が表示されます。

5 DISP.ボタンを押す

- 画面が表示されます。

[起動画面]→手順**6a**、**7a**
[起動音]、[シャッター音]、[操作音]、[セルフタイマー音]→手順**6b**、**7b**

6a 左/右ボタンで登録したい画面を選ぶ

7a SETボタンを押す

6b 左 / 右ボタンで[●](録音)を選び、SETボタンを押す

- 録音が開始されます。
- 一定時間が経過すると、自動的に録音が終了されます。

・起動音:1秒　・操作音:0.3秒
・セルフタイマー音:2秒　・シャッター音:0.3秒

7b 左/右ボタンで[icon](登録)を選び、SET ボタンを押す

8 左/右ボタンで[OK]を選び、SETボタンを押す

- 動画、音声メモ機能(p. 54、94)で記録した音声は、マイカメラコンテンツに登録できません。
- 新しいマイカメラコンテンツを登録すると、以前に登録されていたコンテンツは消去されます。

マイカメラコンテンツのファイルフォーマット

マイカメラコンテンツは、以下のファイルフォーマットにしたがっていることが必要です。ただし、このカメラで撮影したCFカード内の画像は、下記フォーマットに関係なく、登録できます(**動画、音声メモ機能(p. 94)で記録した音声を除く**)。

- **起動画面**
  - ・記録画像フォーマット　JPEG(ベースラインJPEG)
  - ・サンプリングレート　4:2:0 または4:2:2
  - ・画像サイズ　320×240画素
  - ・ファイル容量　20KB以下
- **起動音、操作音、セルフタイマー音、シャッター音**
  - ・記録フォーマット　WAVE(モノラル)
  - ・量子化ビット　8bit
  - ・サンプリング周波数　11.025kHzまたは8.000kHz
  - ・記録時間

	11.025kHz	8.000kHz
起動音	1.0秒以下	1.3秒以下
操作音	0.3秒以下	0.4秒以下
セルフタイマー音	2.0秒以下	2.0秒以下
シャッター音	0.3秒以下	0.4秒以下

上記フォーマット以外のファイルは、カメラに登録できません。

たとえば、[セルフタイマー音]で、「はい、チーズ！」などの掛け声を登録しておくと、シャッターが切れる２秒前にカメラから声が出ます。また他にもさまざまな音をお楽しみいただけます。
陽気なリズムの音楽を登録すれば、目元もほころび、自然な笑顔を撮影できるかもしれません。演奏に合わせてポーズを決めるのも、マイカメラならではの撮影方法です。

マイカメラコンテンツの登録、作成についての詳細は、付属のソフトウェアクイックガイドをご覧ください。

CANON iMAGE GATEWAYを利用する

CANON iMAGE GATEWAYは、キヤノンのデジタルカメラを購入された方がお使いになれるオンラインフォトサービスです。オンラインで会員登録(無料)されると、いろいろなサービスがご利用いただけます。

http://www.imagegateway.net/

- **最新のサービス内容は、上記のサイトでご確認いただけます。**
- **会員登録方法は、上記のサイト、またはソフトウェアクイックガイドでご確認いただけます。**

* インターネットに接続できる環境(プロバイダとの契約やブラウザソフトのインストール、各種回線接続が完了済み)が必要です。

* プロバイダとの接続料金、およびプロバイダのアクセスポイントへの通信料金は、別途かかります。

CANON iMAGE GATEWAYの会員になるとできること

ー次のサービスをご利用いただけますー

バージョンアップなど サポート情報の電子メール配信サービス(無料)

登録されたカメラのファームウェア/ソフトウェアのバージョンアップに関する最新情報を、ご希望の方にお知らせいたします。

オンラインアルバムサービス(無料)

- 撮影した静止画や動画*をCANON iMAGE GATEWAYにアップロードし、ネット上にご自分のアルバムを作成できます。
- 画像につけたコメントや音声もアップロードできますので、オリジナルのアルバムをお楽しみいただけます。

* 動画をアップロードするには、追加ソフトウェア(無料)をCANON iMAGE GATEWAYからダウンロードし、事前にパソコンにインストールすることが必要です。

携帯電話アルバム通知・閲覧サービス(無料)

- お友達やご家族のパソコンや携帯電話に、作成したアルバムのURLをメールで知らせることができます。
  オンラインアルバムは、メールで通知されたURLからパソコンや携帯電話で直接見られるので、楽しい思い出を共有できます*（パソコンからは動画も閲覧できます）。
- 携帯電話は、お使いの機種に合わせて画像の大きさや色数が自動的に調整されます。

* 携帯電話の通信料金は使用された方のご負担となります。また、カラー表示可能な携帯電話をご利用ください。

ホームプリンティングサービス(無料)

- 画面上の印刷ボタンを押すだけで、オンラインアルバム上のお好きな画像を、対応のキヤノン製プリンターで印刷できます*。ご自身だけでなく、お知らせメールを受けたお友達やご家族の方にもご利用いただけます。

* ご利用の際には、プラグインモジュールをCANON iMAGE GATEWAYからダウンロードして、パソコンにインストールすることが必要です。

プリント注文サービス(有料)

- オンラインアルバムの画像は、インターネットから24時間、いつでもプリント注文できます。
- ご自身だけでなく、公開されたアルバムを見たお友達やご家族の方も注文できます。
- プリントサイズはDP判、L判、2L判、A4判、A3判、ポストカードサイズに対応しています。
- プリントは、提携のプリントサービス会社から指定の場所に配送されます。
- 代金はクレジットカード、もしくは最寄りのコンビニエンスストアに設置されているマルチメディア端末を使って(コンビニ決済)、簡単にお支払いいただけます。
- 携帯電話からもプリントを注文できます。

オリジナル写真集（マイブック）作成サービス（有料）

- CANON iMAGE GATEWAYのオンラインアルバムをプリント / 製本して、本格的なオリジナル写真集をインターネットから24時間、いつでも注文できます。
- ご自身だけでなく、公開されたアルバムを見たお友達やご家族の方も注文できます。
- 写真集は、提携のプリントサービス会社から指定の場所に配送されます。
- 代金はクレジットカード、もしくは最寄りのコンビニエンスストアに設置されているマルチメディア端末を使って（コンビニ決済）、簡単にお支払いいただけます。

マイカメラコンテンツのダウンロード（無料）

- マイカメラコンテンツをダウンロードし、カメラに登録できます。
- 多彩なコンテンツが用意されていますので、お好きなものをダウンロードしてカメラに登録すれば、ご自分だけのオリジナルカメラをお楽しみいただけます。

* 画面例はWindows XP用です。また、最新の画面表示と異なることがあります

メッセージ一覧

液晶モニターに表示されるメッセージには以下のものがあります。

● プリンターを接続しているときに表示されるメッセージについては、ダイレクトプリントユーザーガイドをご覧ください。

処理中…	撮影した画像をCFカードに記録しています。 再生モードを起動中です。
カードがありません	CFカードがカメラに入っていないときに、カメラの電源を入れました。
記録できません	CFカードがカメラに入っていないのに撮影しようとしました。
カードが異常です	CFカードに異常があります。
カードがいっぱいです	CF カードの容量いっぱいに画像が記録されていて、これ以上記録や保存ができません。または、これ以上プリント指定を保存できません。
ファイル名が作れません	カメラが作成しようとするディレクトリと同じ名前のファイルが存在する、もしくは、すでにファイル番号が最大値になってしまったために、ファイル名を作成できません。設定メニューの[番号のリセット機能]を[入]に設定してください。必要な画像をパソコンに取り込んだ後、CF カードを初期化してください。なお、初期化すると、CFカード内の画像およびデータはすべて消去されます。
バッテリーを交換してください	電池の容量が少なく、カメラが動作不能です。ただちに4本ともすべて新しい単3形アルカリ電池(p. 16)に交換するか、充電されたキヤノン製の単3形ニッケル水素電池に交換してください。
画像がありません	CFカードに画像が記録されていません。
画像が大きすぎます	4064×3048画素より大きなサイズの画像、またはファイルサイズの大きな画像を再生しようとしました。

互換性のないJPEGです	互換性のないJPEGフォーマットの画像を再生しようとしました。
データが壊れています	データが破壊されている画像を再生しようとしました。
RAW	RAW形式で記録された画像を再生しようとしました。
認識できない画像です	特殊なフォーマット（他社カメラ特有の記録フォーマットなど）で撮影した画像、または別のカメラで撮影した動画を再生しようとしました。
拡大できない画像です	別のカメラもしくは異なるフォーマットで撮影した画像、いったんパソコンに取り込んで加工した画像、または動画を拡大しようとしました。
回転できない画像です	別のカメラもしくは異なるフォーマットで撮影した画像、いったんパソコンに取り込んで加工した画像、または動画を回転させようとしました。
互換性のないWAVEです	録音済みの音声メモの形式が正しくないので、この画像に追加録音できません。
登録できない画像です	このカメラ以外で撮影した画像や、動画を起動画面に登録しようとしました。
プロテクトされています	プロテクトされている画像や動画を消去しようとしました。
指定が多すぎます	プリント指定、送信指定の画像が多すぎます。これ以上指定できません。
指定できない画像です	JPEG以外のファイルをプリント指定しようとしました。
Exx	カメラに異常が発生しました。いったん電源を入れ直して、再び撮影または再生してください。頻繁に、このエラーコードが表示されるときは、故障ですので「xx」の数値を控えサービスセンターへお持ちください。また、撮影直後にこのエラーコードが表示されたときは、撮影されていない場合がありますので、再生モードに切り換えてご確認ください。

故障かなと思ったら

現 象	原 因	対 処
カメラが動作しない	電源が入っていません。	● 電源スイッチをしばらく押してください。
	バッテリーカバーまたはCFカードスロットカバーが開いています。	● バッテリーカバーまたは CF カードスロットカバーがしっかりと閉じていることを確認してください。
	電池が逆向きに入っています。	● 電池を、正しい方向で入れ直してください。
	電池の電圧が足りません。	● 未使用の電池、または十分に充電した電池に4本とも交換してください。 ● AC電源を使用してください。
	不適切な電池が入っています。	● 未使用の単 3 形アルカリ電池またはキヤノン製の単3形ニッケル水素電池を入れてください(電池の取り扱いについて(p. 16))。
	カメラと電池の接触不良です。	● 電池の電極を乾いたきれいな布で拭いてください。 ● 電池を数回入れ直してください。
撮影ができない	再生モードになっています。	● 撮影モードにしてください。
	ストロボが充電中です。	● 充電が完了すると、ランプ(上)が橙色に点灯しますので、シャッターボタンを押してください。
	CFカードの空き容量がありません。	● 新しいCFカードを入れてください。 ● 必要であれば、CF カードに記録されている画像をパソコンに取り込んでから画像を消去し、空き容量を増やしてください。
	CF カードが正しく初期化されていません。	● CF カードを初期化してください(CF カードを初期化する(p. 19))。

現 象	原 因	対 処
撮影ができない	CF カードが正しく初期化されていません。	● CFカードの論理フォーマットが壊れている可能性があります。キヤノンのお客様相談センターにお問い合わせください。
再生ができない	他のカメラで撮影した画像やパソコンで編集した画像を再生しようとしました。	● 付属のZoomBrowser EXやImageBrowserを使って、再生できない画像をパソコンからカメラに追加することで再生できます。詳細は、ZoomBrowser EX / ImageBrowserのソフトウェアガイド(PDF)をご覧ください。
	ファイル名をパソコンで変更したり、ファイルの場所を変更しました。	● ファイル名およびフォルダ番号は、カメラの形式に合ったファイル名にしてください(ファイル番号およびフォルダ番号について(p. 114))。
レンズが出たままで収納されない	電源スイッチを入れたまま、バッテリーカバーまたはCFカードスロットカバーを開けました。	● バッテリーカバーまたはCFカードスロットカバーを閉じた後、電源スイッチを切ってください。
	CF カードへの記録中に、バッテリーカバーまたは CF カードスロットカバーを開けました(警告音が鳴ります)。	● バッテリーカバーまたはCFカードスロットカバーを閉じた後、電源スイッチを切ってください。
電池の消耗が早い	不適切な電池が入っています。	● 未使用の単 3 形アルカリ電池またはキヤノン製の単3形ニッケル水素電池を入れてください(電池の取り扱いについて(p. 16))。

現 象	原 因	対 処
電池の消耗が早い	周囲の温度が低いために電池の容量が低下しています。	● 温度が比較的低い場所で撮影する場合には、ポケットなどに電池を入れて、温めてからお使いください。
	電池の電極が汚れています。	● 電極を乾いた布などで拭いてからお使いください。 ● 電池を数回入れ直してください。
	1年以上お使いにならなかったために、充電池の容量が低下しています。	● フル充電して使い切ることを数回繰り返すうちに容量が回復します。
	充電池の寿命です。	● 4本ともすべて新しい充電池と交換してください。
別売のバッテリーチャージャーで充電できない	電池が逆向きに入っています。	● 電池を正しい方向で入れ直してください。
	充電池とバッテリーチャージャーの接触不良です。	● 充電池をバッテリーチャージャーにしっかりとセットしてください。 ● 電源コードをバッテリーチャージャーのコネクターとコンセントにしっかり差し込んでください。
	電池の電極が汚れています。	● 電極を乾いた布などで拭いてから充電してください。
	充電池の寿命です。	● 4本ともすべて新しい充電池と交換してください。
画像がぼやけているピントがあまい	カメラが動いています。	● シャッターボタンを押すときに、カメラを動かさないように注意してください。
	AF 補助光投光部が何かで覆われているため、オートフォーカスが機能していません。	● AF 補助光投光部に、指などがかからないように注意してください。
	AF補助光投光の設定が [切] になっています。	● AF補助光投光の設定を[入]にしてください(p. 67)。

現 象	原 因	対 処
画像がぼやけている ピントがあまい	被写体がピントの合う範囲からはずれています。	● 被写体から45cm以上離してください。 ● 被写体から5〜45cm（ワイド端）/ 25〜45cm（テレ端）の距離で撮影するときは、マクロモードで撮影してください。
	ピントが合いにくい被写体です。	● フォーカスロックかマニュアルフォーカスで撮影してください（ピントが合いにくい被写体を撮る（p. 88））。
撮影した画像の被写体が暗すぎる	撮影時の光量が不足しています。	● ストロボを常時発光にしてください。
	被写体が周辺部に比べて暗すぎます。	● 露出補正値をプラス側に設定してください。またはスポット測光をお使いください。
	被写体が遠すぎてストロボ光が届いていません。	● ストロボをお使いになるときは、カメラを被写体から4.4m（ワイド端）/ 2.5m（テレ端）以内に近づけてください。 ● ISO感度を上げて撮影してください（ISO感度を変更する（p. 86））。
撮影した画像の被写体が明るすぎる	被写体が近すぎて、ストロボ光が強すぎます。	● ストロボをお使いになるときは、カメラを被写体から45cm以上離してください。
	被写体が周辺部に比べて明るすぎます。	● 露出補正値をマイナス側に設定してください。またはスポット測光をお使いください。
	照明が直接、もしくは被写体の表面で反射してカメラに入っています。	● 被写体に対するカメラのアングルを変えてください。
	ストロボが常時発光になっています。	● ストロボを常時発光以外にしてください。

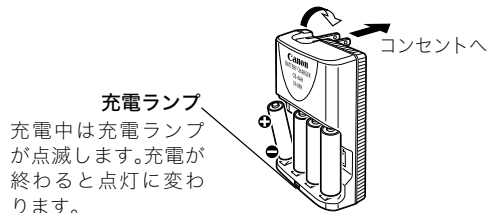
現 象	原 因	対 処
液晶モニター上に縦に赤紫などの帯が表示される	被写体が極端に明るすぎます。	● CCD特有の現象で、カメラの故障ではありません(動画にはこの帯が記録されますが、静止画には記録されません)。
画像に白い点などが写る	ストロボ撮影時に空気中のちりやほこり、虫などにストロボ光が反射しました。 特に以下の条件で目立ちやすくなります。 - ワイド側で撮影した場合 - 絞り優先AEで絞り数値を大きくして撮影した場合	● デジタルカメラ特有の現象でカメラの故障ではありません。
ストロボが発光しない	ストロボが発光禁止になっています。	● ストロボを常時発光にしてください。
テレビに出力できない	お使いの地域のビデオ出力形式に合っていません。	● 正しいビデオ出力形式(NTSCまたはPAL)に合わせてください。 ● 日本国内の出力形式は、「NTSC」です。
	撮影モードダイヤルが (スティッチアシスト)になっています。	● ではテレビに出力できません。他の撮影モードで撮影してください。
ズームの操作ができない	動画撮影中にズームレバーを操作しました。	● 動画を撮影する前にズームを操作してください。
CFカードからの画像の読み出しが遅い	違う機器で初期化したCFカードが入っています。	● このカメラで初期化したCFカードをお使いください(CFカードを初期化する(p. 19))。
CFカードへの画像の記録時間が長い		

電源キット（別売）の使いかた

充電式バッテリーを使う

（バッテリー / チャージャーキットCBK4-200）

バッテリーチャージャーと単３形ニッケル水素電池４本が入っています。次のように電池を充電してください。

充電ランプ
充電中は充電ランプが点滅します。充電が終わると点灯に変わります。

- このバッテリーチャージャーでは、キヤノン製の単3形ニッケル水素電池NB-2AH以外の電池を充電しないでください。また、NB-2AHを他の充電器で充電しないでください。
- 新しい電池と、他のカメラなどで使用した電池を混ぜて使わないでください。
- 電池を充電するときは、必ず、一緒に使用している4本を同時に充電してください。
- 充電状態の異なる電池、購入時期の異なる電池を混ぜて使わないでください。
- 電池を保護し、性能の劣化を防ぐため、フル充電された電池を再度充電しないでください。また、24 時間以上連続して充電しないでください。
- 熱のこもりやすい場所では充電しないでください。
- 容量を使い切らずに充電を繰り返すと、容量が低下することがあります。液晶モニターに「バッテリーを交換してください」というメッセージが表示されるまで使い切ったあと、充電してください。
- 以下のときは、電池の電極を乾いた布などでよく拭いてからお使いください。電極が皮脂などで汚れていることがあります。
  - 電池の使用可能時間が著しく短いとき
  - 記録画像数が著しく少ないとき
  - 電池を充電するとき（さらに、電池の取り付けと取り外しを２～３回繰り返してから充電してください。）
  - 電池の充電時間が数分程度で終了する（バッテリーチャージャーの充電ランプが点灯する）とき

- 電池の特性により、お買い求め直後や長期間お使いにならなかった電池は、十分に充電されないことがあります。このときは、フル充電して電池を使い切ることを数回繰り返してください。電池の性能が元に戻ります。
- フル充電の状態で長期間(1年くらい)保管すると、電池の寿命を縮めたり、性能の劣化の原因となることがありますので、カメラで電池を使い切ってから常温(23 ℃以下)の涼しいところで保管することをおすすめします。また長期間使用しないときは、1年に1回程度フル充電し、カメラで使い切ってから保管してください。
- 電極を拭いてから充電ランプが点灯するまで充電したにもかかわらず、電池の使用可能時間が著しく短いときは、電池の寿命と考えられます。新しい電池と交換してください。新しくお求めになるときは、キヤノン製の単3形ニッケル水素電池(4本セット)をご購入ください。
- 電池をカメラやバッテリーチャージャーに入れたままにしておくと、液漏れが原因で故障することがあります。お使いにならないときは、カメラやバッテリーチャージャーから取り出して乾燥した冷暗所に保管してください。

- 完全に放電された状態からフル充電になるまでの時間は、約250分です(当社測定基準による)。0〜35℃の範囲で充電してください。
- 充電時間は、周囲の温度や充電状態により異なります。
- バッテリーチャージャーを使用中、音がすることがありますが故障ではありません。
- バッテリー / チャージャーキットCBK100もお使いになれます。バッテリー / チャージャーキットCBK100では、キヤノン製の単3形ニッケル水素電池NB-1AHを充電してください。

Ni-MH

・この製品には、ニッケル水素電池を使用しています。
・ニッケル水素電池はリサイクル可能な貴重な資源です。
・ニッケル水素電池の回収・リサイクルについては、下記のキヤノンのホームページで確認できます。
キヤノンサポートページ
canon.jp/support
・交換後不要になった電池は、ショートによる発煙、発火の恐れがありますので、端子を絶縁するためにテープを貼るか、個別にポリ袋に入れてリサイクル協力店にある充電式電池回収BOXに入れてください。
・リサイクル協力店のお問い合わせは、以下へお願いします。
製品、ニッケル水素電池をご購入いただいた販売店
(社)電池工業会* 小形二次電池再資源化推進センター
及び充電式電池リサイクル協力店くらぶ事務局
* (社)電池工業会　電話番号 03-3434-0261

リサイクル時のご注意

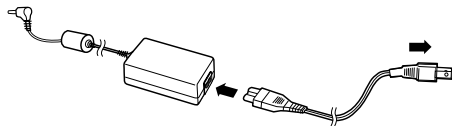
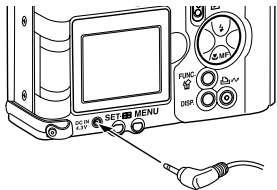
・電池を分解しないでください。

ACアダプターキットACK600を使う

カメラを連続して長時間お使いになるときや、パソコンと接続するときは、AC アダプターキット ACK600(別売)のご利用をおすすめします。

コンパクトパワーアダプターの取り付けや取り外しは、カメラの電源を切ってから行ってください。

1 **コンパクトパワーアダプターに電源コードを接続し、電源プラグをコンセントに差し込む**

付録

2 端子カバーを開き、コンパクトパワーアダプターのDCプラグをカメラのDC IN端子に接続する

- 使用後は、電源プラグをコンセントから抜いてください。

ACアダプターキットACK600以外の電源キットをお使いになると、カメラやACアダプターキットの故障の原因となることがあります。

レンズ(別売)の使いかた

別売のワイドコンバーターWC-DC52、テレコンバーターTC-DC52A、クローズアップレンズ 250D(52mm)を取り付けるときは、別売のコンバージョンレンズアダプターLA-DC52Dが必要です。

- ワイドコンバーター / テレコンバーター / クローズアップレンズを取り付けるときは、確実にねじ込んでください。緩んで脱落して割れると、ガラスの破片でけがをすることがあります。
- ワイドコンバーター / テレコンバーター / クローズアップレンズは、絶対に太陽や強烈なライトに向けないでください。失明の恐れがあります。

- ストロボを使用すると、画像の周辺部(特に画面右下)が暗くなります。
- テレコンバーターは、テレ端の位置でお使いください。それ以外のズーム位置でお使いになると、画像が欠け(ケラレ)ることがあります。

- ワイドコンバーターは、ワイド端の位置でお使いください。
- ファインダーを使用すると、ファインダー内の一部が欠け(ケラレ)て見えます。

ワイドコンバーター WC-DC52

広角撮影するためのレンズで、焦点距離は、カメラ本体の焦点距離の約0.7倍になります(ねじ径52mm)。

テレコンバーター TC-DC52A

望遠撮影をするためのレンズで、焦点距離は、カメラ本体の焦点距離の約1.75倍になります(ねじ径52mm)。

クローズアップレンズ 250D(52mm)

簡単にマクロ撮影をするためのレンズです。マクロモードで、レンズ前面から被写体までが、テレ端で8～11cm、ワイド端で4～16cmの至近距離で撮影できます。

ワイドコンバーターやテレコンバーターにフィルターやレンズフードは取り付けられません。

撮影範囲(マクロモード時)について

	レンズ前面から被写体までの距離	撮影範囲
テレ端	8cm	45×34mm
	11cm	55×41mm
ワイド端	4cm	48×36mm
	16cm	148×111mm

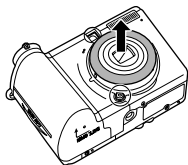
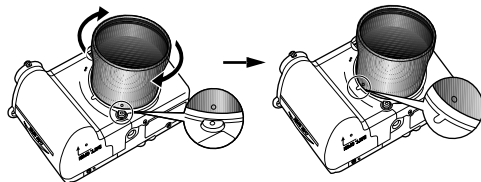
コンバージョンレンズアダプター LA-DC52D

ワイドコンバーター / テレコンバーターや、クローズアップレンズを取り付けるためのレンズアダプターです(ねじ径52mm)。

レンズを取り付ける

1 電源が切れていることを確認する

2 リング取り外しボタンを押しながら、リングを矢印の方向に回す

3 カメラの ◯ とリングの ▮ が合ったら、リングを上に引き上げて外す

4 コンバージョンレンズアダプターの●をカメラの ◯ 印に合わせてから、▯ 印のところまで矢印の方向に回して取り付ける

- コンバージョンレンズアダプターを取り外すときは、リング取り外しボタンを押しながら、反対方向に回します。

5 レンズを矢印の方向に回して確実に取り付ける

- ご使用前には、レンズ面のゴミをブロワーブラシなどで完全に取り除いてください。ゴミが付いていると、ゴミにピントが合ってしまいます。
- レンズには、指紋がつきやすいのでご注意ください。
- リングを外すときは、カメラやコンバージョンレンズアダプターを落とさないように注意してください。
- ファインダーを使用すると、ファインダー内の一部が欠け(ケラレ)て見えます。またファインダーでは、画角が確認できませんので、液晶モニターをお使いください。
- レンズを取り付けて で撮影した画像は、パソコンを使ってパノラマ画像合成ソフトウェア「PhotoStitch」で正しく合成できません。

海外で使うとき

このデジタルカメラは、海外でもお使いになれますが、次のことにご注意ください。

テレビでの再生

ビデオ出力方式は、初期設定では、日本国内で採用している NTSC 方式に設定されていますが、海外の別方式(PAL方式:主にヨーロッパ、オセアニア、アジア(一部地域を除く))に切り換えることができます。海外に旅行したときなどは、切り換えてお使いください(p. 71)。

電源について

コンパクトパワーアダプターやバッテリーチャージャーは、AC100～240V 50/60Hzまでの電源に接続できます。ただし、電源コンセントの形状が異なる国では、変換プラグアダプターが必要になります(1 つの国の中でも地域によってコンセントの形状が異なる場合があります)。変換アダプターについては、旅行代理店などで確認のうえ、あらかじめご用意ください。

■海外の電源コンセントの種類

タイプ	A	B	BF	C	S
コンセントの形状					
変換プラグ	不要です				

主な国名と使用するプラグの種類

●北米	
アメリカ合衆国	A
カナダ	A

●ヨーロッパ	
アイスランド	C
アイルランド	C
イギリス	B.BF
イタリア	C
オーストリア	C
オランダ	C
ギリシャ	C
スイス	C
スウェーデン	C
スペイン	A.C
デンマーク	C
ドイツ	C
ノルウェー	C
ハンガリー	C
フィンランド	C
フランス	C
ベルギー	C
ポーランド	B.C
ポルトガル	B.C
ルーマニア	C

●アジア	
インド	B.C.BF
インドネシア	C
シンガポール	B.BF
スリランカ	B.C.BF
タイ	A.BF.C
大韓民国	A.C
中華人民共和国	A.B.BF.C.S
ネパール	C
パキスタン	B.C
バングラデシュ	C
フィリピン	A.BF.S
ベトナム	A.C
香港特別行政区	B.BF
マカオ特別行政区	B.C
マレーシア	B.BF.C

●オセアニア	
オーストラリア	S
グアム	A
タヒチ	C
トンガ	S
ニュージーランド	S
フィジー	S

●中南米	
アルゼンチン	BF.C.S
コロンビア	A
ジャマイカ	A
チリ	B.C
ハイチ	A
パナマ	A
バハマ	A
プエルトリコ	A
ブラジル	A.C
ベネズエラ	A
ペルー	A.C
メキシコ	A

●中近東	
イスラエル	C
イラン	C
クウェート	B.C
ヨルダン	B.BF

●アフリカ	
アルジェリア	A.B.BF.C
エジプト	B.BF.C
カナリア諸島	C
ギニア	C
ケニア	B.C
ザンビア	B.BF
タンザニア	B.BF
南アフリカ共和国	B.C.BF
モザンビーク	C
モロッコ	C

- ACアダプターキットやバッテリーチャージャーを海外旅行用の電子変圧器などに接続すると故障のおそれがありますので使用しないでください。
- このカメラの保証書は、国内に限り有効です。万一、海外旅行先で、故障、不具合が生じた場合は、持ち帰ったあと、国内の「お客様相談センター」にご相談ください。

カメラのお手入れ

カメラやレンズ、ファインダー、液晶モニターなどが汚れたときは、次の方法でクリーニングしてください。

カメラ	：	やわらかい布やメガネ拭きなどで汚れを拭き取ってください。
レンズ	：	市販のブロワーブラシでほこりやゴミを吹き払ったあと、やわらかい布で軽く拭き取ってください。 ● カメラやレンズは、絶対に有機溶剤を含むクリーナーなどで拭かないでください。どうしても汚れが落ちないときは、最寄りのキヤノンサービスセンター(別紙の「修理サービスご相談窓口」をご参照ください)にご相談ください。
液晶モニター、ファインダー	：	市販のブロワーブラシでほこりやゴミを吹き払ってください。汚れがひどいときは、やわらかい布やメガネ拭きなどで軽くこすって汚れを落としてください。 ● 液晶モニターの表面を強くこすったり、押したりすると、表面にキズがつきますので、ご注意ください。

絶対にシンナーやベンジン、中性洗剤や水などを使ってクリーニングしないでください。部品の変形や故障の原因になることがあります。

主な仕様

すべてのデータは、当社測定条件によります。都合により記載内容を予告なしに変更することがあります。

PowerShot A95

カメラ部 有効画素数	約500万画素
撮像素子	1/1.8型CCD（総画素数約530万画素）
レンズ	7.8（W）-23.4（T）mm（35mmフィルム換算 38（W）-114（T）mm）、F2.8（W）-4.9（T）
デジタルズーム	最大約4.1倍（光学ズームと合わせて最大約12倍のズームが可能）
光学ファインダー	実像式光学ズームファインダー
液晶モニター	1.8型低温ポリシリコンTFT 液晶カラーモニター 約11.8万画素
AF方式	TTLオートフォーカス9点（AiAF）/ 1点（AF）（1点時の測距枠は任意移動 / 中央固定の選択可能）
撮影距離（レンズ先端より）	通常撮影時：45cm〜∞ マクロ撮影時：5〜45cm（W）/ 25〜45cm（T） マニュアルフォーカス撮影：5cm〜∞（W）/ 25cm〜∞（T）
シャッター	メカニカルシャッター + 電子シャッター
シャッタースピード	15〜1/2000秒 ● 撮影モードにより異なる ● 1.3秒を超えてからノイズリダクション処理あり
測光方式	評価測光（測距点に連動）/ 中央部重点平均測光 / スポット測光(中央固定 / AF枠連動)

（W）：ワイド端　（T）：テレ端

露出制御方式	プログラムAE / シャッタースピード優先AE / 絞り優先AE / マニュアル露出
露出補正	±2段(1/3段ステップ)
感度	オート / ISO 50 / 100 / 200 / 400 相当
ホワイトバランス	オート / プリセット(太陽光 / くもり / 電球 / 蛍光灯 / 蛍光灯H) / マニュアル
内蔵ストロボ	オート* / 常時発光* / 発光禁止 *赤目緩和設定可能
内蔵ストロボ撮影範囲	通常撮影　:45cm〜4.4m(W) / 45cm〜2.5m(T) マクロ撮影　:25〜45cm(W/T)(感度設定:オート)
撮影モード	オート クリエイティブゾーン:プログラム / シャッタースピード優先 / 絞り優先 / マニュアル / カスタム イメージゾーン:ポートレート / 風景 / 夜景 / 高速シャッター / スローシャッター / スペシャルシーン(新緑 / 紅葉、スノー、ビーチ、打上げ花火、水中、パーティー / 室内、キッズ&ペット、ナイトスナップ) / スティッチアシスト / 動画
連続撮影	高速連続撮影:約2.0画像/秒 通常連続撮影:約1.5画像/秒 (ラージ / ファインモード、液晶モニター非表示のとき)
セルフタイマー	約10秒 / 約2秒後に撮影
パソコン接続撮影	USB接続時、付属のソフトウェアで撮影可能
記録媒体	コンパクトフラッシュカード(Type I)
画像ファイルフォーマット	DCF準拠*1、DPOF対応

画像記録フォーマット	静止画:JPEG(Exif2.2)*2 動　画:AVI(画像データ:Motion JPEG / 音声データ:WAVE(モノラル))
圧縮率	スーパーファイン / ファイン / ノーマル
記録画素数　静止画 動　画	ラージ:　2592×1944画素 / ミドル1:2048×1536画素 ミドル2:　1600×1200画素 / スモール:640×480画素 640×480画素(30秒) / 320×240画素(3分) / 160×120画素(3分) 640:10フレーム / 秒、320 160:15フレーム / 秒　(　)内は1回の最長記録時間
再生モード	シングル再生(ヒストグラム表示可能) / インデックス再生(サムネイル9画像) / 拡大再生(液晶モニター上で最大約10倍に拡大可能) / オートプレイ / 音声メモ(最長約60秒まで記録可能)
ダイレクトプリント	CPダイレクト / Bubble Jetダイレクト / PictBridge対応
表示言語	日本語 / 英語 / ドイツ語 / フランス語 / オランダ語 / デンマーク語 / フィンランド語 / イタリア語 / ノルウェー語 / スウェーデン語 / スペイン語 / 中国語(簡体字) / ロシア語 / ポルトガル語
マイカメラ(カスタマイズ)機能	起動画面 / 起動音 / 操作音 / セルフタイマー音 / シャッター音が、以下の方法で設定が可能。 1. このカメラで記録 2. 付属のソフトウェアやオンラインフォトサービス「CANON iMAGE GATEWAY」からダウンロード
CANON iMAGE GATEWAY対応機能	付属のソフトウェアを使って、CANON　iMAGE　GATEWAYの会員登録、画像のアップロード、オンラインアルバムサービス、携帯電話アルバム通知･閲覧サービス、カメラへのマイカメラコンテンツのダウンロード、オンラインプリントサービス、オリジナル写真集作成サービス、ホームプリンティングサービスなどが利用可能
インターフェース	USB(mini-B、PTP [Picture Transfer Protocol]) 映像 / 音声出力端子(NTSCまたはPAL切換可能、モノラル音声)

電源	単3形アルカリ電池(付属)(NB4-200) 単3形充電式ニッケル水素電池(別売) ACアダプターキット ACK600(別売)
動作温度	0~40℃
動作湿度	10~90%
大きさ	101.1×64.6×34.7mm(突起部を除く)
質量	約235g(本体のみ)

*1:DCFは、(社)電子情報技術産業協会(JEITA)で主として、DSC等の画像ファイル等を関連機器で簡便に利用しあえる環境を整えることを目的に標準化された規格「Design rule for Camera File system」の略称です。

*2:このデジタルカメラは、Exif 2.2(愛称「Exif Print」)に対応しています。Exif Printは、デジタルカメラとプリンターの連携を強化した規格です。Exif Print対応のプリンターと連携することで、撮影時のカメラ情報を活かし、それを最適化して、よりきれいなプリント出力結果を得ることができます。

電池性能について

	撮影画像数		再生時間
	CIPA測定法準拠	液晶モニター非表示時	
単3形アルカリ電池(付属品)	約140画像	約500画像	約280分
単3形ニッケル水素電池(NB-2AH(フル充電))	約400画像	約1000画像	約360分

* 撮影画像数は、撮影状況、撮影モードなどによっても異なります。

＜測定条件＞

撮影：常温(23±2℃)・常湿(50±20%)で、2回に1回ストロボを発光させながら、30秒間隔でワイド端とテレ端で交互に撮影し、10画像撮影後に電源切。十分な時間*が経過した後、再び電源を入れて同様の方法で撮影を繰り返す。

・付属のメモリーカードを使用

・CIPA測定法は液晶モニター表示

* 電池の温度が常温に戻るまでの時間

再生：常温(23±2℃)・常湿(50±20%)の環境において、1画像あたり3秒間隔で連続再生。

●電池の取り扱いについて(p. 16)

CFカードの種類と記録可能画像数の目安

□ 付属のカード

		FC-32MH	FC-64M	FC-128M	FC-256MH	FC-512MSH
L	S	11	24	49	99	198
		21	43	88	177	354
		43	88	176	355	709
M1	S	18	38	76	154	308
		33	68	137	276	552
		67	136	274	548	1096
M2	S	30	61	122	246	491
		54	109	219	440	879
		107	217	435	868	1736
S	S	119	241	482	962	1893
		195	393	788	1563	3125
		336	676	1355	2720	5209
動画	640	45秒	92秒	186秒	374秒	743秒
	320	91秒	183秒	368秒	735秒	1453秒
	160	241秒	486秒	973秒	1954秒	3906秒

- 動画の1回の最長撮影時間は、640：30秒、320：3分*、160：3 分です。表中の数値は繰り返し撮影した場合の最大記録可能時間です。
  * 64MB以上のCFカード使用時
- S（スーパーファイン）、（ファイン）、（ノーマル）は、圧縮率を表します。
- L（ラージ）、M1（ミドル 1）、M2（ミドル 2）、S（スモール）、640、320、160は、以下の記録画素数を表します。

L（ラージ）	2592×1944画素
M1（ミドル1）	2048×1536画素
M2（ミドル2）	1600×1200画素
S（スモール）	640× 480画素
640	640× 480画素
320	320× 240画素
160	160× 120画素

1画像の容量（目安）

		S		
L (2592×1944)		2503KB	1395KB	695KB
M1 (2048×1536)		1602KB	893KB	445KB
M2 (1600×1200)		1002KB	558KB	278KB
S (640×480)		249KB	150KB	84KB
動画	640 (640×480画素)	660KB/秒		
	320 (320×240画素)	330KB/秒		
	160 (160×120画素)	120KB/秒		

ニッケル水素電池 NB-2AH

(別売のニッケル水素電池パック NB4-200またはバッテリー / チャージャーキット CBK4-200に付属)

形式	単3形充電式ニッケル水素電池
公称電圧	DC1.2V
公称容量	2300mAh(最小:2150mAh)
充放電回数	約300回(目安)
動作温度	0〜35℃
大きさ	直径:14.5mm 長さ:50mm
質量	約29g

バッテリーチャージャー CB-4AH

(別売のバッテリー / チャージャーキット CBK4-200に付属)

定格入力	AC100〜240V(50/60Hz) 16〜21VA
定格出力	565mA*1 1275mA*2
充電時間	約250分*1 約110分*2
動作温度	0〜35℃
大きさ	65.0×105.0×27.5mm
質量(本体のみ)	約95 g

*1 NB-2AH 4本の充電時間
*2 NB-2AH 2本をバッテリーチャージャーの両端にセットしたときの充電時

コンパクトパワーアダプター CA-PS500

(別売のACアダプターキット ACK600に付属)

定格入力	AC100〜240V(50/60Hz)/16VA(100V)〜26VA(240V)
定格出力	DC4.3V/1.5A
使用温度	0〜40℃
大きさ	42.5×104.4×31.4mm
質量(本体のみ)	約180g

コンパクトフラッシュカード

カードスロットタイプ	Type I
大きさ	36.4×42.8×3.3mm
質量(本体のみ)	約10 g

ワイドコンバーター WC-DC52（別売）

倍率	約0.7 倍 （35mm フィルム換算で 26.6mm 相当<ワイド端>）
撮影距離 （レンズ先端より）	約0.5cm～∞ （ワイド端マクロモード時：PowerShot A95装着時）
ねじ径	52mm標準フィルターネジ （PowerShot A95に装着時はコンバージョンレンズアダプターLA-DC52Dが必要）
大きさ	直径：55.7mm　長さ：23.7mm
質量	約74g

クローズアップレンズ 250D 52mm（別売）

焦点距離	250mm
撮影距離 （レンズ先端より）	4～16cm（W）/8～11cm（T） （マクロモード：PowerShot A95装着時）
ねじ径	52mm標準フィルターネジ （PowerShot A95に装着時はコンバージョンレンズアダプターLA-DC52Dが必要）
大きさ	直径：54mm 長さ：10.2mm
質量	約55 g

テレコンバーター TC-DC52A（別売）

倍率	約1.75 倍 （35mm フィルム換算で 200mm 相当<テレ端>）
撮影距離 （レンズ先端より）	約2.2m～∞ （テレ端：PowerShot A95装着時）
ねじ径	52mm標準フィルターネジ （PowerShot A95に装着時はコンバージョンレンズアダプター LA-DC52Dが必要）
大きさ	直径：55.2mm　長さ：49.3mm
質量	約86g

コンバージョンレンズアダプター LA-DC52D（別売）

ねじ径	52mm標準フィルターネジ
大きさ	直径：55.6mm 長さ：36.6mm
質量	約14g

ワンポイントアドバイス

● **セルフタイマーの活用法** (p. 44)
シャッターボタンを押した瞬間に、カメラが動いてしまう可能性があります。このとき、セルフタイマーを[セルフタイマー2秒アイコン]に設定すると、2秒後に撮影されるので、画像のブレを防ぐことができます。
カメラを固定した台の上に置いたり、三脚を使用すると、よりきれいな画像を撮影できます。

● **夜景だけを撮りたいとき**(p. 38)
夜景だけを撮りたいときは、ストロボを[発光禁止アイコン]にして撮ります。
夜景は、光そのものが被写体であるため、ストロボを使用すると、夜景の光を打ち消してしまいます。ただし、シャッタースピードが遅くなり、カメラを手持ちするとブレやすいので、必ず三脚をお使いください。

● **マクロ機能の一歩進んだ使いかた**(p. 43)
マクロ機能は、レンズのズーム機能と合わせて使うと、より特徴のある画面作りが可能になります。たとえば花を撮るとき、ズームを広角側にすると花の背景までピントのあった画像が撮影できますし、望遠側にすると花の背景を効果的にぼかすことができます。

広角側でマクロ撮影

望遠側でマクロ撮影

● **露出補正のしかた**(p. 82)
このカメラは、適切な明るさで撮影できるよう、自動で露出を調整しています。しかし、撮影状況によっては、実際よりも明るく写ったり、暗く写ってしまうことがあります。このようなときは、手動で露出を補正してください。

露出不足(アンダー)
全体が黒っぽく写ります。そのため、白いものはグレーのように写ります。白っぽい被写体や逆光で撮影すると、露出アンダーになることがあります。+側に補正してください。

付録

適切な露出

露光過多(オーバー)
全体が白っぽく写ります。そのため、黒いものはグレーのように写ります。黒っぽい被写体や暗い場所で撮影すると、露出オーバーになることがあります。ー側に補正してください。

● **ISO感度**(p. 86)
ISO感度とは、光を感じる能力を数値化したものです。数値が高いほど感度が高くなります。ISO感度が高いと、暗い室内や屋外でストロボを使わずに撮影でき、また手ブレしにくくなります。例えば、ストロボ撮影禁止の場所で撮影するときに便利です。その場の光を生かした雰囲気のある仕上がりになります。

ISO:50相当

ISO:400相当

索引

付録

タ　行

ハ　行

マ　行

付録

ラ　行

補修用性能部品について

保守サービスの為に必要な補修用性能部品の最低保有期間は、製品の製造打切り後7年間です（補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。）。

この装置は情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。ユーザーガイド（本書）に従って正しい取り扱いをしてください。

各撮影モードで設定できる機能一覧

各撮影モードで設定できる機能は以下のとおりです。
Cのときは、登録時に設定した内容で撮影ができます(p. 91)。

			AUTO						SCN(1)			P	Tv	Av	M	参照先
記録画素数	ラージ	L	○*	○*	○*	○*	○*	○*	○*	△*	−	○*	○*	○*	○*	40
	ミドル1	M1	○	○	○	○	○	○	○	△	−	○	○	○	○	
	ミドル2	M2	○	○	○	○	○	○	○	△	−	○	○	○	○	
	スモール	S	○	○	○	○	○	○	○	△	−	○	○	○	○	
	L判プリント		○	○	○	○	○	○	○	−	−	○	○	○	○	52
	動画	640	−	−	−	−	−	−	−	−	○	−	−	−	−	40
	動画	320	−	−	−	−	−	−	−	−	○*	−	−	−	−	
	動画	160	−	−	−	−	−	−	−	−	○	−	−	−	−	
圧縮率	スーパーファイン		○	○	○	○	○	○	○	△	−	○	○	○	○	40
	ファイン		○*	○*	○*	○*	○*	○*	○*	△*	−	○*	○*	○*	○*	
	ノーマル		○	○	○	○	○	○	○	△	−	○	○	○	○	
ストロボ	オート		○*	○*	○	○*	○*	○	○*	−	−	○	−	−	−	41
	常時発光		−	○	○	○	○	○	○	△	−	○	○	○	○	
	発光禁止		○	○	○*	○	○	○*	○	△*	−	○*	○*	○*	○*	
赤目緩和			○	○	○	○	○	○	○	△	−	○	○	○	○	43
ストロボ発光量			−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	○	88
AF補助光			○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○	36

*:初期設定　○:設定可　△:最初の1画像で設定可　−:設定不可
（灰色）:電源を切っても、解除されません。

付録

			AUTO						SCN(1)			P	Tv	Av	M	参照先
ドライブモード	シングル撮影		○*	○*	○*	○*	○*	○*	○*	△*	○*	○*	○*	○*	○*	–
	通常連続撮影		–	○	○	○	○	○	○	–	–	○	○	○	○	46
	高速連続撮影		–	○	○	○	○	○	○	–	–	○	○	○	○	
	10秒セルフタイマー		○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○	44
	2秒セルフタイマー		○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○	
AFフレーム	AiAF		○*	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	78
	中央(2)		–	○	○	○	○	○	○	–	–	○	○	○	○	
	アクティブ		–	–	–	–	–	–	–	–	–	○	○	○	○	
AFロック			–	○	○	○	○	○	○	–	○	○	○	○	○	89
マニュアルフォーカス		MF	–	○	○	○	○	○	○	–	○	○	○	○	○	89
マクロ撮影			○	○	–	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○	43
デジタルズーム		入	○	○	○	○	○	○	○	–	–	○	○	○	○	45
		切	○*	○*	○*	○*	○*	○*	○*	–	–	○*	○*	○*	○*	
露出補正			–	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	–	82
測光方式	評価測光		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○*	○*	○*	○*	81
	中央部重点平均測光		–	–	–	–	–	–	–	–	–	○	○	○	○	
	スポット測光(3)		–	–	–	–	–	–	–	–	–	○	○	○	○	
	中央固定		–	–	–	–	–	–	–	–	–	○	○	○	○	
	AF枠連動		–	–	–	–	–	–	–	–	–	○	○	○	○	
ホワイトバランス(4)		WB	–(5)	○	○	○	○	○	–(6)	△	○	○	○	○	○	83
色効果			–	○	○	○	○	○	–(6)	△	○	○	○	○	○	87
ISO感度		ISO	–(6)	–(6)	–(6)	–(6)	–(6)	–(6)	–(6)	–(6)	–(6)	○	○	○	○(7)	86

		AUTO						SCN(1)			P	Tv	Av	M	参照先
縦横自動回転	入	○*	○*	○*	○*	○*	○*	○*	△*	–	○*	○*	○*	○*	92
	切	○	○	○	○	○	○	○	△	–	○	○	○	○	

[日付 / 時刻]、[言語]、[ビデオ出力方式]以外のメニュー設定と、ボタン操作によるカメラの設定を、一度にすべて初期設定に戻すことができます(p. 73)。

(1) [新緑 / 紅葉]、[打上げ花火]では、ストロボの初期設定は[発光禁止]になります。
[打上げ花火]では、以下の設定はできません。
- ストロボの[オート]、[常時発光]
- 赤目緩和機能
- AF補助光
- AFフレームの選択
- マクロ
- AFロック
- マニュアルフォーカス
[キッズ&ペット]では、以下の設定はできません。
- マクロ
- AFフレームの選択
(2)電子ズームの使用中は[中央]に設定されます。
(3)AFフレームが[AiAF]の場合は設定できません。
(4)色効果が[セピア]、[白黒]の場合は設定できません。
(5)ホワイトバランスは[オート]に設定されます。
(6)カメラが自動的に設定します。
(7)ISO[AUTO]は設定できません。